

授業科目	診療に伴う技術Ⅱ	学年	2学年
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	本科目では、与薬の技術の基本的知識を学び、技術を習得する。診療の補助技術のなかでも薬物療法に伴う与薬の技術は、対象の生命に直接関与する。特に、薬物の効果や副作用の観察、発見、対処などの確実な知識と、薬物の効果を最大に発揮できるような確実な技術が求められる。ゆえに、ある程度の基礎技術を習得した2年次に行う。この技術は、医療事故につながりやすい技術であり、よりいっそう安全で確実な技術が求められる。薬剤の投与だけでなく、管理方法についても学ぶ。		
目的	与薬の技術の基本的知識を学び、技術を習得する。		
目標	1.与薬の技術の意義と援助方法を理解する 2.基礎的与薬の技術、採血技術を身につける		
評価方法	筆記試験 技術試験（配分：静脈血採血 1割・点滴静脈内注射 1割）		
使用テキスト	<系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学3・基礎看護技術Ⅱ：医学書院		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院		
科目担当	専任教員	看護師として附属病院で13年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	与薬の技術 1) 与薬の基礎知識	与薬の基礎知識について理解する	与薬とは 剤形と吸収経路 看護師の役割 薬の管理 麻薬の管理	講義・演習	基礎看護技術Ⅱ
2	与薬の技術 2) 経口、外用、直腸内の与薬方法	経口与薬、吸入、点眼・点鼻、外用薬、経皮的与薬 直腸内与薬について理解する	経口与薬 吸入、点眼・点鼻、外用薬、経皮的与薬、直腸内与薬 1)目的 2)適応 3)禁忌 4)援助の実際 経皮・外用薬投与の体験	講義・演習	基礎看護技術Ⅱ
3	与薬の技術 3) 経口与薬、直腸内与薬の実際	経口与薬・直腸内与薬を実施できる	経口与薬の実際 直腸内与薬の実際 1)剤形の種類に応じた経口与薬の体験 2)対象の羞恥心に配慮した直内内与薬の体験 3)誤薬防止のための確認	演習	基礎看護技術Ⅱ
4	与薬の技術 4) 注射の基本知識 (静脈注射、点滴静脈内注射の方法)	静脈内注射や点滴静脈内注射の目的・方法・注意点について理解する 針刺し事故防止、事故後の対策について理解する	注射の基本知識 1)注射の適応 2)注射方法と種類 静脈内注射の目的・方法・注意点 点滴静脈内注射の目的・方法・注意点 3)針刺し事故防止対策の実施方法、事故後の対策について 4)注射の準備（アンプル、バイアルの薬液の吸い上げ）	講義	基礎看護技術Ⅱ
5	与薬の技術 5) 皮内・皮下注射の方法、筋肉内注射の方法、静脈血採血	目的・吸収機序・実施部位・針の刺入角度と深さを理解した注射の実施法について理解する	目的・吸収機序・実施部位・針の刺入角度と深さを理解した注射の実施法 皮内注射、皮下注射の目的・方法・注意点 筋肉注射の目的・方法・注意点 静脈血採血の目的・方法・注意点	講義	基礎看護技術Ⅱ
6	与薬の技術 6) 皮下注射・皮内注射・筋肉注射の実際	皮内注射・皮下注射・筋肉注射を実施することができる	皮内注射の実際 皮下注射の実際 筋肉注射の実際 アンプルカット、アンプルからの薬液の吸い上げ 1)安全で正確に実施するための体位と注射部位の確認 2)適切な部位に、注射針の刺入角度・深さを守った注射の実施 3)薬液を注入する前の血液の逆流や痛みや痺れの確認	演習	基礎看護技術Ⅱ

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
7	与薬の技術 7) 静脈内注射・静脈血採血の実際	静脈内注射・静脈血採血を実施することができる	静脈内注射の実際 静脈血採血の実際 バイアルからの薬液の吸い上げ 1)安全で正確に実施するための体位と注射部位の確認 2)適切な部位に、注射針の刺入角度・深さを守った注射・採血の実施 3)薬液を注入する前の血液の逆流や痛みや痺れの確認と採血時の痺れの確認 4)注射の目的、薬剤の効果を理解した対象への説明及び採血の目的の説明	演習	基礎看護技術Ⅱ
8	与薬の技術 8) 点滴静脈内注射・輸液管理の実際	点滴静脈内注射・輸液速度の調整を実施できる	点滴静脈内注射（静脈留置針）の実際 輸液速度の調整の方法 1)点滴静脈内注射の実施過程がわかる ①必要物品お適切な配置 ②留置針の操作 ③留置針の固定法 ④留置針の抜去方法	演習	基礎看護技術Ⅱ
9	与薬の技術 9) 輸液ポンプ、シリンジポンプの操作	輸液ポンプ、シリンジポンプの操作方法について理解する	輸液ポンプ、シリンジポンプの安全な操作 1)適応 2)動作原理 3)正しい使い方 4)正しい管理	講義	基礎看護技術Ⅱ
10	与薬の技術 10) 輸液ポンプ、シリンジポンプの操作の実際	輸液ポンプ、シリンジポンプの操作を実施できる	輸液ポンプ、シリンジポンプの操作方法 1)点滴台への取り付け 2)初動操作の確認 3)輸液ポンプの設定 4)輸液ポンプ、シリンジポンプ使用中の留意点 5)輸液ポンプ・シリンジポンプ操作中の留意点	演習	基礎看護技術Ⅱ
11	与薬の技術 11) 中心静脈栄養や輸血の管理	中心静脈栄養や輸血の管理方法について理解する	中心静脈栄養の管理 1)適応と目的 2)中心静脈カテーテルの管理と観察 輸血の管理方法 1)血液製剤の種類 2)副作用 3)投与時の留意点	講義	基礎看護技術Ⅱ
12	与薬の技術 12) 中心静脈栄養や輸血の管理	中心静脈栄養や輸血の管理方法について理解する	中心静脈栄養の管理 1)適応と目的 2)中心静脈カテーテルの管理と観察 輸血の管理方法 1)血液製剤の種類 2)副作用 4)投与時の留意点	演習	基礎看護技術Ⅱ
13	与薬の技術 13) 静脈血採血の実際	目的を理解し、安全かつ正確な注射に関する技術を理解する	静脈血採血	技術試験	
14	与薬の技術 14) 静脈内点滴注射の実際	目的を理解し、安全かつ正確な注射に関する技術を理解する	静脈内点滴注射	技術試験	
15	テスト				

授業科目	ヘルスアセスメント	学年	2学年
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	看護師は対象に日常生活援助技術や診療補助技術などさまざまな援助を提供する。これらの援助を安全かつ適切に行うためには、対象の心身状況や障害についてアセスメントを行う必要がある。よって、共通基本技術としてヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、症状・生体機能管理技術を学習する。		
目的	ヘルスアセスメントの重要性を理解し、基本的知識・技術を習得する。		
目標	1.ヘルスアセスメントの方法を理解する 2.症状・生体機能管理技術の意義と援助方法を理解する 3.基礎的な症状・生体機能管理技術を身につける 4.フィジカルアセスメントの意義と方法を理解する 5.フィジカルアセスメントの基礎的技術を身につける		
評価方法	筆記試験 技術試験（配分：バイタルサイン測定 1割）		
使用テキスト	<系統看護学講座>専門分野・基礎看護学2・基礎看護技術Ⅰ：医学書院 看護がみえるVol3 フィジカルアセスメント		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
科目担当	専任教員	看護師として附属病院で11年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	ヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントの意義	ヘルスアセスメントの意義を理解する	バイタルサインの観察やフィジカルアセスメントの目的と意義を理解し、看護における観察の意味について考え、ヘルスアセスメントの意義について学ぶ。	講義	基礎看護技術Ⅰ
2	ヘルスアセスメント 2) 体温、脈拍測定	体温測定・脈拍測定に関する基礎的知識を理解する	体温・脈拍に影響する諸因子をふまえ、体温・脈拍の測定と観察に必要な基礎的知識と技術を学ぶ。	講義 演習	基礎看護技術Ⅰ
3	ヘルスアセスメント 3) 血圧測定	血圧測定に関する基礎的知識を理解する	血圧測定に影響する諸因子をふまえ、血圧測定と観察に必要な基礎的知識と技術を学ぶ	講義 演習	基礎看護技術Ⅰ
4	ヘルスアセスメント 4) 呼吸測定、意識レベルの確認	呼吸測定と意識レベルの確認に関する基礎的知識を理解する	呼吸や意識レベルに影響する諸因子をふまえ、呼吸測定と意識レベルの観察に必要な基礎的知識と技術を学ぶ。	講義 演習	基礎看護技術Ⅰ
5	ヘルスアセスメント 5) バイタルサイン測定の実際	バイタルサイン測定の基礎的技術を身につける	基本的なバイタルサイン測定の技術を、一連の流れとして学ぶ。	演習	基礎看護技術Ⅰ
6	ヘルスアセスメント 6) 身体計測	身体計測に関する基礎的知識を理解する	身体計測の方法と、計測値の判断に必要な基礎的知識と技術を学ぶ。	講義 演習	基礎看護技術Ⅰ
7	ヘルスアセスメント 7) 頭頸部、感覚器（眼・耳・鼻・口）、外皮系のフィジカルアセスメント	頭頸部、感覚器（眼・耳・鼻・口）、外皮系のフィジカルアセスメントの基礎的技術を理解する	頭頸部、感覚器（眼・耳・鼻・口）、外皮系のフィジカルアセスメントの基礎的知識と技術を学ぶ。	講義 演習	基礎看護技術Ⅰ
8	ヘルスアセスメント 8) 筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント	筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメントの基礎的技術を理解する	筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメントの基礎的知識と技術を学ぶ。	講義 演習	基礎看護技術Ⅰ

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
9	ヘルスアセスメント 9) 呼吸器系のフィジカルアセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメントの基礎的技術を理解する	呼吸器系のフィジカルアセスメントの基礎的知識と技術を学ぶ。	講義 演習	基礎看護技術Ⅰ
10	ヘルスアセスメント 10) 循環器系のフィジカルアセスメント	循環器系のフィジカルアセスメントの基礎的技術を理解する	循環器系のフィジカルアセスメントの基礎的知識と技術を学ぶ。	講義 演習	基礎看護技術Ⅰ
11	ヘルスアセスメント 11) 乳房・腋窩、腹部のフィジカルアセスメント	乳房・腋窩、腹部のフィジカルアセスメントの基礎的技術を理解する。	乳房・腋窩、腹部のフィジカルアセスメントの基礎的知識と技術を学ぶ。	講義 演習	基礎看護技術Ⅰ
12	ヘルスアセスメント 12) 直腸・肛門・外性器・鼠径部 のフィジカルアセスメント	直腸・肛門・外性器・鼠径部のフィジカルアセスメントの基礎的技術を理解する	直腸・肛門・外性器・鼠径部のフィジカルアセスメントの基礎的知識と技術を学ぶ。	講義 演習	基礎看護技術Ⅰ
13	ヘルスアセスメント 13) フィジカルアセスメントの実際	フィジカルアセスメントを活かした技術と能力を身につける	視診・聴診・打診・触診の基本的な方法と呼吸器・腹部のアセスメントについて学ぶ。	演習	基礎看護技術Ⅰ
14	ヘルスアセスメント 14) バイタルサイン測定 の実際	バイタルサイン測定が習得できる	バイタルサイン測定	技術試験	
15	テスト				

授業科目	臨床看護総論	学年	2学年
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	人間には誕生から死までのライフサイクルがあり、健康状態も絶えず変化し連続している。本科目では、多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に対し、各領域の学習に入る前に、経過別看護の特徴、代表的な検査・治療とその看護など、どの看護学領域にも共通する看護場面における基礎的知識とその看護を学ぶ。診療・検査時の看護では、検査時の介助の具体的な方法について学び、検査・治療を受ける患者の看護につなぐ。医療用機器の発達により、看護師も使いこなさなければならない機器が増えている。それらの機器を使う上での留意点など、共通する事項といくつかの機器操作についても学ぶ。臨床看護の基本的な考え方の理解し、事例を用いた疾患、症状、治療、処置の関連づけや対象の全体像を捉える。		
目的	多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に対し、共通する看護場面における基礎的知識とその看護を学ぶ。		
目標	1.治療・処置を受ける対象の看護を理解する 2.経過別看護の特徴を理解する 3.化学療法の基礎的知識と看護を理解する 4.放射線療法の基礎的知識と看護を理解する 5.透析療法の基礎的知識と看護を理解する 6.輸血・移植医療の基礎的知識と看護を理解する 7.臨床看護の基本的な考え方を理解する		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学4・臨床看護総論：医学書院 <系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学3・基礎看護技術II：医学書院 <系統看護学講座別巻> がん看護学：医学書院 <系統看護学講座専門分野> 腎・泌尿器：医学書院 <系統看護学講座専門分野> 血液・造血器：医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
参考図書	看護過程に沿った対症看護・病態生理と看護のポイント：学研 臨床看護総論		
科目担当	専任教員	看護師として附属病院で9年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	治療・処置を受ける対象への看護	医療用機器の基礎的知識と治療・処置を受ける対象への看護について理解する	治療・検査における看護師の役割、医療用機器使用時の看護、検査時の看護（心電図検査・超音波検査・内視鏡検査・肺機能検査）	講義	
2	経過別患者の看護	経過別看護の特徴について理解する	急性期・回復期・慢性期・終末期の特徴、治療の特徴と看護	講義	
3	化学療法と看護	化学療法の特徴と化学療法を受ける対象者への看護を理解する	化学療法の特徴 化学療法を受ける患者・家族への看護援助 人体へのリスクの大きい薬剤の曝露予防策の実施	講義	
4	放射線療法と看護	放射線療法の特徴と放射線療法を受ける対象者への看護を理解する	放射線療法の特徴 放射線療法を受ける患者・家族への看護援助	講義	
5	透析療法と看護	透析療法の特徴と透析を受ける対象者への看護を理解する	透析療法の特徴 透析療法を受ける患者・家族への看護援助	講義	
6	輸血・移植と看護	輸血・移植療法の特徴と輸血・移植療法を受ける対象者への看護を理解する	輸血療法の特徴 輸血療法を受ける患者・家族への看護援助 移植療法の特徴 移植療法を受ける患者・家族への看護援助	講義	
7	臨床看護の基本的な考え方の理解	患者の身体的・精神的・社会的側面からの全体像の把握の概要的な捉え方を理解する	事例を用いた疾患、症状、治療、処置の関連づけや対象の全体像の概要を捉える 臨床判断とは 臨床判断モデル	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
8	テスト				

授業科目	看護理論	学年	2学年
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	<p>看護理論は看護を定義づけ、看護の目的と対象、方法について筋道を立てて述べたものである。看護理論を看護実践に活用すると、科学的根拠に基づきながら、より対象の個性に沿った関わりができる。</p> <p>本授業では、ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、ロイなどの看護理論の基礎を理解し、看護理論が看護実践（過程）の中でどのように活かされているのかについて理解する。そして、看護に対する見方、考え方を身につけ、自ら学んでいける力を養う。</p>		
目的	看護理論の基礎を理解し、看護過程の展開を通して看護理論を実践に応用することの意義を理解する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.理論とは何かが理解できる 2.代表的な看護理論を理解できる 3.看護理論の活用のプロセスを理解し、事例を展開できる 4.看護実践に看護理論を活用する意義を理解できる 		
評価方法	筆記試験80点 レポート20点		
使用テキスト	<系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学2・基礎看護技術Ⅰ：医学書院 やさしく学ぶ看護理論：日総研出版 中範囲理論入門：日総研出版 オレムのセルフケアモデルを用いた看護過程の展開：ヌーヴェルヒロカワ		
参考図書			
科目担当	専任教員	看護師として附属病院で20年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	看護理論の理解①	さまざまな看護理論について理解する	看護理論の特徴 ①哲学：ナイチンゲール ②大理論：キング ③状況理論 ④中範囲理論	講義	
2	看護理論の理解②	さまざまな看護理論について理解する	看護理論の特徴 ①働きかけの看護理論：ヘンダーソン・ワトソン・ウィーデンバッグ ②人間関係理論：ペプロウ・キング・トラベルビー ③対象論的な看護理論：ロイ・ニューマン	講義	
3	看護理論の理解③	さまざまな看護理論について理解する	看護理論の特徴 ①看護援助、健康教育に活用できる看護理論：健康信念モデル・変容ステージモデル	講義	
4	オレム看護理論	オレム看護理論の概略を学ぶ	オレム看護理論 ①セルフケア論 ②セルフケア不足論 ③看護システム	講義	
5	ロイ適応理論	ロイの適応理論の概略を学ぶ	ロイの適応理論 ①適応システムとしての人間 ②4つの適応様式	講義	
6	ペプロウの看護理論	ペプロウの看護理論の概略を学ぶ	ペプロウの看護理論 ①看護師・患者の治療的人間関係のプロセス ②治療的人間関係の4段階 ③看護師に求められる6つの役割	講義	
7	看護理論の活用① 理論を活用した情報整理・アセスメント	看護理論を活用して対象を理解する	看護理論を活用した情報整理とアセスメント	演習	
8	看護理論の活用② 対象理解	看護理論を活用して対象を理解する	看護理論を活用した対象の健康状態のアセスメント	演習	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
9	看護理論の活用③ 看護目標	根拠に基づいた看護援助を 導く過程を理解する	看護目標立案と看護理論による根拠づけ	演習	
10	看護理論の活用④ 看護計画立案	根拠に基づいた看護援助を 導く過程を理解する	看護理論を活用した看護計画の立案	演習	
11	オレム-アンダーウ ッドのセルフケアモ デル	オレム-アンダーウ ッドのセルフケアモ デルを理解する	オレム-アンダーウ ッドのセルフケアモ デル ①オレム看護論の修正 ②オレム-アンダーウ ッドモデルの看護過程	演習	
12	オレム-アンダー ウ ッドモデルの看護 過程① 普遍的セルフケア要 素のアセスメント	オレム-アンダーウ ッドモ デルを利用した看護過程を 理解する	オレム-アンダーウ ッドモデルを利用した看護過程 基本的条件付けの確認 普遍的セルフケア要素の確認 セルフケアの状態の捉え方	演習	
13	オレム-アンダー ウ ッドモデルの看護 過程② セルフケアの状態と セルフケアレベルの 判断	オレム-アンダーウ ッドモ デルを利用した看護過程を 理解する	オレム-アンダーウ ッドモデルを利用した看護過程 セルフケアの状態のアセスメント セルフケアレベルの判断	演習	
14	オレム-アンダー ウ ッドモデルの看護 過程③ 看護目標	オレム-アンダーウ ッドモ デルを利用した看護過程を 理解する	オレム-アンダーウ ッドモデルを利用した看護過程 看護目標 看護実践への応用	演習	
15	テスト				

授業科目	看護過程	学年	2学年
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	本科目では、看護問題を解決するための方法論である看護過程に関する基本的知識・技術を学ぶ。看護過程は、情報を収集してその情報を分析し、対象の健康上の問題を明らかにする。その問題を解決するために援助計画をたて、実践し評価するという経過をたどる。このことにより効果的で質の高い援助につながる。看護過程の展開においては、ものごとを注意深く観察し、熟考し、主観や思い込みを廃して論理的に探求・推論しなければならない。そのために理論的知識も活用する。この看護過程を展開する基盤となる思考方法は、繰り返し使うことにより身につけていく。そのため、紙上事例を用いて、看護過程の一連の過程を体験するなかで、思考方法を強化していく。		
目的	看護問題を解決するための方法論である看護過程に関する基本的知識・技術を学ぶ。		
目標	1.クリティカルシンキングの思考を養う 2.看護過程の一連のプロセスを理解する 3.事例を通して、看護過程を展開する 分からないことを自ら考え、調べる力を養う		
評価方法	筆記試験(70点) 演習 パフォーマンス評価(30点)		
使用テキスト	<系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学2・基礎看護技術Ⅰ：医学書院 NANDA-I看護診断・定義と分類：北米看護診断協会 N E W実践・看護診断を導く・情報収集・アセスメント[第7版]：学研		
参考図書			
科目担当	専任教員	看護師として附属病院で9年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	看護過程の意義 看護過程の構成要素	看護過程の意義について理解する	看護過程を学ぶ意義について理解していく。	講義	
2	アセスメント①	アセスメント（情報収集と分析）について理解する	看護過程の構成要素に沿って、アセスメントから学習する。NANDA-Iを活用したアセスメントの視点と照らし合わせて分析をしていく。	講義	
3	アセスメント②	アセスメントについて理解する	NANDA-Iの各領域の視点と照らし合わせて分析をする。	講義	
4	アセスメント③	アセスメント、関連図について理解する	NANDA-Iの各領域の視点と照らし合わせて分析する。関連図で情報をつなげ関連性を考える。	講義	
5	アセスメント④	アセスメント（全体像の整理）について理解できる	対象の全体像を表す関連図から統合アセスメントとして全体像を整理する。	講義	
6	看護診断①	看護診断について理解する	対象の全体像から看護問題を明確にする。看護問題の優先順位の考え方や看護問題の表現方法について学習する。	講義	
7	看護診断②	看護診断について理解する	NANDA-Iの診断概念を学習し、対象の看護問題を看護診断で表現する。	講義	
8	看護計画	看護計画について理解する	対象にとって期待される成果や看護介入を考える。看護計画としてまとめていく。	講義	
9	看護過程演習 アセスメント①	演習を通して、アセスメントができる	紙上事例をもとに、アセスメントする。	演習	
10	看護過程演習 アセスメント②	演習を通して、アセスメントができる	アセスメントの過程において、疑問を解決しながら取り組む。	演習	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
11	看護過程演習 アセスメント③	演習を通して、関連図・統合アセスメントとして全体像を整理することができる	関連図、統合アセスメントで全体像をまとめる過程において、疑問を解決しながら取り組む。	演習	
12	看護過程演習 看護診断	演習を通して、看護診断をつけることができる	アセスメントから得られた情報を整理し、看護診断を考える。 看護診断過程において、疑問を解決しながら取り組む。	演習	
13	看護過程演習 看護計画	演習を通して、看護計画を立案することができる	対象に合わせた成果と介入を考え、看護計画を立案する。疑問を解決しながら取り組む。	演習	
14	実施、評価、看護記録	実施・評価・看護記録について理解する	実施上の留意事項や、記録の実際、評価の方法について学習する。	講義	
15	テスト				

授業科目	基礎看護学実習Ⅰ	学年	2 学年
		単位	2
時期	前期		90時間
科目設定理由	<p>基礎看護学実習Ⅰは、2年次最初の授業科目である。治療に応じた看護の実際を学ぶ成人看護学実習Ⅱと共に同時進行で2年次がスタートする。1年次は人体の構造と機能や生活援助技術、成長発達支援等を学び、看護の対象は4側面を持つ統合体として捉え、生活者として全体的に洞察することを学習している。また、既習の知識や技術を活かして対象理解につなげ、援助は科学的な根拠を基に計画的に実践し、対象の反応や変化をもとにリフレクションすることを学習している。対象へは受容的・共感的態度、傾聴の姿勢で接し、他者に配慮し倫理観に基づいた看護を実践することも学習している。さらに、成長発達と健康を支える実習を通じ、看護の役割を認識しチームの一員として協働することの大切さも学習している。加えて、看護実践を通して自己の課題を持ちながら看護を探究することを学んでいる。しかし、病態生理や疾患、ヘルスアセスメントから対象を観察し対象の状態を判断することは未習である。</p> <p>本実習は、対象に応じた日常生活援助を実践できる能力を養う実習である。人は暮らしの場が異なっても日常生活は営まれる。その日常生活に焦点をあて対象に合わせた援助技術の向上を目指す。よって、看護師と共に対象に応じた様々な日常生活援助技術を経験する。同時に、一人の患者を担当させて頂き、一つの援助技術に焦点をあて、対象に応じた援助を具体的に考え「対象に合わせる」ということを深める。また、その患者がよりよい生活を送るために必要な援助があるかを考え、実践につなげる。さらに、援助は実施する技術の目的や理論から根拠をもって実践することの大切さを学ぶ。</p> <p>本実習を通して今後の病態生理学や疾患、ヘルスアセスメントを学ぶにあたり動機づけとなるため対象の状況に合わせた看護援助は何かを深めるとともに、日常生活援助技術の向上に向けてより多くの体験をしていく。</p>		
目的	対象に応じた日常生活援助を実践できる能力を養う		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の健康状態と療養によって生じた日常生活行動の変化について理解する 2. 対象の健康状態や生活の変化に応じた援助を実践する 3. 対象の健康状態の変化による生活上の課題に気づき、対象に個別的で根拠に基づいた日常生活援助を計画・実施する 4. 対象と誠実に関わり信頼関係を築こうとする 5. 看護師としての基本的姿勢を考え行動する 		
評価方法	実習評価表に基づく総合評価		
事前学習	日常生活援助技術に必要な知識、技術、既習した理論		
実習記録	<p>共通記録用紙1：わたしの実習での取り組み 共通記録用紙3：対象理解用紙 基礎看護学実習Ⅰ記録用紙①：日々の体験シート 基礎看護学実習Ⅰ記録用紙②：一つの援助技術を深めるシート 基礎看護学実習Ⅰ記録用紙③：他に必要な援助を考えるためのシート 基礎看護学実習Ⅰ記録用紙④：実施記録 基礎看護学実習Ⅰ記録用紙⑤：対象との一場面を深めるシート 基礎看護学実習Ⅰ記録用紙⑥：日々の行動記録用紙 学びのレポート、評価表</p>		
カンファレンス	<p>1～3日目：看護師と共に実施した看護援助を通して学んだこと 4～6日目：受け持ち対象に必要な援助と根拠 7～12日目：実施した援助やリフレクションを通しての学び、援助の根拠（既習した理論家や目的から考える） 記録用紙⑤を用いたカンファレンス</p>		

実習計画

	実習内容	①②を同時に実施
1～3	実習オリエンテーション	①看護師と日常生活援助技術を見学・体験 ②受け持ち対象の日常生活援助技術を深める
4～6		
7～9	中間評価	
10～12		

実習場所：太田西ノ内病院、太田熱海病院

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ	学年	2 学年
		単位	2
時期	後期		90時間
科目設定理由	<p>看護師は、安全なケアを提供できるように、現在の状況を観察して評価を行い、患者に優先すべきことを明確にし、最良のエビデンスに基づく解決策を生み出すために、看護の知識を活用していくことを繰り返すプロセスをとっている。この看護師の思考は臨床判断といわれ、実践的知識とも言われる。学生も臨床的思考の発展を促すためには、看護師の思考を学び、臨床判断能力を身につけることが求められている。</p> <p>本実習は看護師の思考過程を理解し、思考を育成する実習である。看護師の臨床判断の実際を言語化し、看護師が患者との日々の関わりを通してどのような思考過程を踏んでいるのかを病棟12日間の実習で学んでいく。学生は、2年次最初の基礎看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱで治療に応じた看護の実際や日常生活援助技術の体験から根拠をもって実践することの大切さを学んでいる。その上で病態生理や疾患の知識、ヘルスアセスメントから対象を観察し対象の健康状態を判断する方法を学んでいる。また、診療の補助技術を学び安全・安楽に実施する看護技術を習得している。その上で、2年次総まとめの実習として学んだ知識や技術を活かし、目の前の対象に起きていた状況を正確に観察し判断することや、看護師の思考過程に合わせて看護介入を考えていけるようにする。学生自身の考えを持ちながら、自己の見方を離れ看護師が何を考えているのか、どのように感じているのかを推察し、患者の言動に対していかに反応するかを予測するなど看護師の視点に立って物事を捉えようとする思考を育てていく。そのためには、積極的に看護師と共に行動し周縁的な位置からその場に一緒に参加する正統的周辺参加を通して看護師の思考過程を学びつつ、看護の共同体の一員と自覚する。また、自分自身も思考過程をもとに看護実践を実施しながら研鑽的に臨床判断能力を養っていく。</p>		
目的	看護師の臨床判断の実際を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が行う臨床判断のプロセスについて理解する。 2. 専門的知識を看護場面で活用しながら、対象の状況・反応を知覚的に把握する。 3. フィジカルアセスメントを活用し、対象の今後の状態を予測する。 4. 情報の意味づけを行い、対象の状況・反応に合わせた介入方法を選択する。 5. 対象の状況・反応に合わせた介入を行い、成果を評価する。 6. 主体的・対話的学びを通して学習成果を深める。 		
評価方法	実習評価表に基づく総合評価		
事前学習	実習病棟に多い疾患の病態とその看護について、看護技術の練習、ヘルスアセスメントの知識、技術 臨床判断の基礎知識		
実習記録	<p>共通記録用紙1：わたしの実習での取り組み 共通記録用紙3：対象理解用紙 共通記録用紙4：フローシート 共通記録用紙9：実施記録 基礎看護学実習Ⅱ記録用紙①看護師の思考過程を言語化する 基礎看護学実習Ⅱ記録用紙②自己の即時的な思考過程を言語化する 基礎看護学実習Ⅱ記録用紙③記録用紙②の場面に対するリフレクションシート 基礎看護学実習Ⅱ記録用紙④行動記録用紙 学びのレポート、評価表</p>		
カンファレンス	<p>看護師は何に気づきどのように解釈、反応していたか 分析的視点の解釈に必要なこと、説話的視点を深めるための看護師の関わり 自己の気づきと解釈、自己の反応を通して省察できた学び</p>		

実習計画

	実習内容
1～3	看護師と共に行動し看護師の思考過程を言語化していく
4～9	看護師と共に行動しつつ、2人1組でペアとなり受け持ち患者と関わりながら自分たちの気づきを大切に思考過程を言語化していく。 看護師の思考過程に基づき自分の思考過程を言語化する。自己の解釈、反応に今後必要な視点をリフレクションしながら深めていく
10～12	1～3日目と同様に看護師と共に行動し、看護師の思考過程を再度学ぶ機会とする。

実習場所：実習場所：太田西ノ内病院病棟 11箇所

授業科目	地域在宅看護概論	学年	2学年
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	<p>地域・在宅看護の対象は「地域で療養する人々とその家族」である。地域・在宅看護を考える上で必要となる基盤となる理念、倫理的課題の理解が必要となる。また、地域・在宅看護に関連する指標から地域・在宅看護の必要性を理解する。</p> <p>地域・在宅で生活する人々が、住み慣れた環境で生活を継続するための、地域包括ケアシステムと社会資源、看護の役割を学ぶ。</p>		
目的	住み慣れた環境で生活を継続するための看護活動を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域・在宅看護の意義を理解する 2.地域・在宅看護の基盤となる理念と倫理的課題を理解する 3.地域・在宅看護と病棟看護を理解する 4.社会資源の活用における看護師の役割を理解する 5.ケアマネジメントの定義とプロセスを理解する 6.在宅ケアチームの意義と連携を理解する 7.地域包括ケアシステムの意義と連携を理解する 		
評価方法	筆記試験・課題		
使用テキスト	<系統看護学講座>地域・在宅看護の基盤・地域・在宅看護の実践：医学書院		
参考図書	わたしたちの介護保険		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	地域・在宅看護の意義 地域・在宅看護の倫理	地域・在宅看護の意義を理解する 地域・在宅看護の基盤となる理念と倫理的課題を理解する。	<p>1.地域・在宅看護の意義</p> <ol style="list-style-type: none"> ①在宅看護とは ②訪問看護の場 ③在宅看護の社会背景 ④在宅看護を学ぶ目的 <p>2.地域在宅看護の基盤となる理念</p> <p>3.療養者中心の医療 ・意思決定の尊重</p> <p>4.在宅看護の倫理的課題</p>	講義・演習	
2	地域・在宅看護に関連する指標	地域・在宅看護に関連する指標から在宅看護の必要性を理解する	<p>1.地域・在宅看護に関連する指標</p> <p>2.在宅ケアのニーズが高まった理由</p>	講義・演習	在宅看護に関連する指標を「国民衛生の動向」等を使って調べる。
3	地域・在宅看護と病棟看護 社会資源	<p>地域・在宅看護と病棟看護の違いを理解する</p> <p>社会資源の活用における看護師の役割を理解する</p>	<p>1.地域・在宅看護と病棟看護</p> <ol style="list-style-type: none"> ①在宅看護の目的 ②在宅看護の特性 ③訪問看護利用者の特性 <p>1.社会資源とは</p> <ol style="list-style-type: none"> ①フォーマルな支援システム ②インフォーマルな支援システム ③在宅看護に関わる人的資源 ④在宅看護に関わる物的資源 <p>2.社会資源活用における看護師の役割</p> <p>3.訪問看護における社会資源活用の実際</p>	講義・演習	<p>在宅看護と病棟看護の違いについて考える。</p> <p>事例をもとに社会資源活用の実際を考える。</p>
4	訪問看護	訪問看護の概略を理解する	<p>1.訪問看護設置基準</p> <p>2.訪問看護の歴史</p> <ol style="list-style-type: none"> ①家庭訪問 ②訪問指導 <p>3.関係法規</p>	講義・演習	保健医療福祉概論・社会福祉制度で関係法規を履修するため授業進度を確認する。
5			<ol style="list-style-type: none"> ①老人保健法 ②医療保険 ③介護保険 ④難病 ⑤障害者総合支援法 		

6	ケアマネジメント	1.ケアマネジメントの定義とプロセスを理解する	1.ケアマネジメントの定義 2.ケアマネジメントのプロセス ①ケアマネジメントのポイント ②介護サービス計画作成 ・居宅サービス計画書1,2 ・週間サービス計画表 ・居宅介護支援経過 ・サービス提供表・提供表別表	講義・演習	
7	ケアマネジメント	2.地域包括ケアシステムの意義と連携を理解する	③訪問看護における記録 ・訪問看護指示書 ・訪問看護報告書 ・ケアプランに関わる用紙 ④評価 ・カンファレンス ・サービス担当者会議	講義・演習	
8	テスト				

授業科目	地域在宅看護実践論Ⅰ	学年	2学年
		単位	1
時期	前期～後期	時間	30
科目設定理由	地域・在宅で療養する人とその家族が望む生活が継続できるよう関わる必要がある。地域・在宅で起こりうる生活上の問題・健康上の問題を把握し、解決できる能力を身につける。		
目的	地域・在宅で療養する人とその家族の健康上の問題を理解し、在宅看護の機能と役割を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設から在宅にむけての看護の視点を理解する。 2. 在宅看護における面接技術を理解する。 3. 在宅療養にむけての療養者とその家族の不安を理解する。 4. 退院に向けての支援と調整について理解する。 5. 在宅におけるフィジカルアセスメントを理解する。 6. 在宅療養者の特徴を理解する。 7. 生活を支える施設を把握できる。 8. 在宅療養生活を支える法律を理解する。 9. 在宅における問題解決方法の特徴を理解する。 10. 在宅看護において大切な視点を理解する。 		
評価方法	筆記試験・課題		
使用テキスト	<系統看護学講座>地域・在宅看護の実践：医学書院		
参考図書	わたしたちの介護保険		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	地域・在宅看護における問題解決技術	地域・在宅看護における問題解決方法の特徴を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1.訪問看護における看護過程の特徴：場の違い、意思決定プロセス、家族の能力・介護力、社会資源の活用 2.アセスメントの視点 <ol style="list-style-type: none"> ①情報収集 ②アセスメント ③計画立案 ④実施 ⑤評価 3.家庭訪問・初回訪問 <ul style="list-style-type: none"> 訪問時の留意点、マナー、 訪問終了後の行動の理解 	講義	課題：事例から初回訪問を考える
2	在宅における面接・訪問技術	在宅における面接・訪問における技術を考える。	<ol style="list-style-type: none"> 1.模擬面接 2.面接評価 <ul style="list-style-type: none"> 評価の視点 <ol style="list-style-type: none"> ①マナー ②説明方法・理解度の確認 ③療養者・家族の自律尊重 ④家族力・介護力 ⑤社会資源の活用 	講義・演習	事例をもとにグループで訪問予定を計画する
3		在宅における面接・訪問における看護師の動きの理解をする。	<ol style="list-style-type: none"> 1.模擬面接 2.面接評価 <ul style="list-style-type: none"> 評価の視点 <ol style="list-style-type: none"> ①マナー ②説明方法・理解度の確認 ③療養者・家族の自律尊重 ④家族力・介護力 ⑤社会資源の活用 3.まとめ 	演習	在宅看護実習室でロールプレイ

4	在宅療養にむけての 対象の不安	在宅療養にむけての療養者 とその家族の不安を理解で きる	1.在宅療養への不安 2.病棟看護師としての退院指導の視点 3.退院に向けての指導 4.病院と在宅との継続看護 5.外来看護	講義・演習	
5	在宅におけるフィジ カルアセスメント	在宅におけるフィジカルア セスメントを理解できる	在宅におけるフィジカルアセスメント ①バイタルサインを評価 ②腹部の聴診：腸蠕動音を評価 ③胸部の聴診：酸素の供給状態の評価 ④「今から次回訪問まで」アセスメント	講義・演習	
6	退院調整・退院支援 の実際	退院に向けての支援と調整 の実際を理解できる	1.退院支援とは 2.退院調整とは 3.退院調整看護師とその役割 4.退院支援・退院調整における連携	講義・演習	退院調整看護師
7	在宅看護における 様々な対象	在宅療養者の特徴を理解す る。	1.在宅看護における様々な対象 ①成人の在宅療養者 ②高齢の在宅療養者	講義・演習	
8			1.在宅看護における様々な対象 ①子供の在宅療養者 ②疾病や障害を持つ在宅療養者	講義・演習	
9	学校がある地域を知 る	生活を支える施設を把握で きる	1.生活を支える施設 生活を支える施設・サービスはあるか	演習	2コマで市内各地 に分かれ、 フィールドワー クをする。学校 に戻り、結果を 記録する。
10				演習	
11				演習	
12	在宅療養生活を支え る法律	在宅療養生活を支える法律 を理解できる	在宅療養生活者を支える法律 (事例を通して)	講義・演習	訪問看護師
13	在宅療養生活の理解	在宅療養生活を理解できる	在宅療養者の生活 事例から「生活の全体図」をまとめる	講義・演習	生活の中で気にな ることから原因 や誘因となる ことを考え、 「生活の全体 図」「訪問記 録」に記入す る。
14	在宅療養生活の理解	在宅療養生活における大切 な視点を理解できる	1.在宅看護で大切にしたい視点 ①療養者の思い 人生観、生きがい等 ②介護者の思い、介護者の健康状態 ③日常生活の自立度 ④生活環境 ⑤疾患、障害の状況 ⑥利用している社会資源	講義	
15	テスト				

授業科目	地域在宅看護実践論Ⅱ	学年	2学年
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	地域・在宅で療養する人とその家族が望む生活を継続するためには、生活の場で個々の健康障害や生活条件に合わせて、可能な限り自立できることを目指した日常生活の援助が必要である。地域・在宅における援助技術を学び実践する。望む生活を継続するためには、どのような地域包括ケアシステムが必要か考える。		
目的	生活の場で個々の健康障害や生活条件に合わせた看護の援助技術を学び実践する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅における食事と排泄の援助を理解する。 2. 在宅における移動の援助を理解する 3. 在宅における清潔の援助を理解する。 4. 在宅におけるリスクマネジメントを理解する。 5. 在宅における日常生活の援助の実際を体験する。 6. 臥床療養者の洗髪の実際を体験する。 7. 在宅人工呼吸療法をしている療養者の援助を理解する 8. 在宅酸素療法と在宅中心静脈栄養法をしている療養者の援助を理解する。 9. 在宅経管栄養法在宅中心静脈栄養法をしている療養者の援助を理解する。 10. 腹膜透析をしている療養者の援助を理解する。 11. 家族看護における看護師の役割を理解する。 12. 生活の継続を支えるための仕組みを理解する。 		
評価方法	筆記試験・課題		
使用テキスト	<系統看護学講座> 地域・在宅看護の実践：医学書院		
参考図書	わたしたちの介護保険		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	在宅におけるリスクマネジメント	在宅におけるリスクマネジメントを理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅におけるリスクマネジメント 2.在宅における感染予防 ①在宅療養者と感染症 ②感染予防・早期発見 ③家族の指導 	講義	
2	在宅における食事・排泄の援助	在宅における食事・排泄の援助を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅における食の援助 ①食のアセスメント ②食の援助の実際と技術 2.在宅における排泄の援助 ①排泄のアセスメント ②排泄の援助と技術 ③家族の指導 	講義	
3	在宅における移動の援助	在宅における移動の援助を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅における移動の援助 ①移動のアセスメント ②移動の援助と技術 ③家族の指導 	講義	
4	在宅における清潔の援助	在宅における清潔の援助を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅における清潔の援助 ①清潔のアセスメント ②清潔の援助と技術 ③家族の指導 	講義	
5	在宅における日常生活援助の実際①	在宅における日常生活援助を実施できる	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅における日常生活援助の実際 ・リフトの操作・風呂への移動 ・車椅子トイレへの移動・排泄介助・ケリーベッド作成 	演習	演習レポート
6	在宅における日常生活援助の実際②	臥床している療養者の洗髪を実施できる	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅における日常生活援助の実際 臥床している療養者の洗髪 	演習	演習レポート

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
7	在宅人工呼吸療法をしている療養者の援助	在宅人工呼吸療法（HMV）をしている療養者の援助を理解できる	1.看護師の特定行為 2.在宅人工呼吸療法（HMV） ①在宅人工呼吸療法とは ②在宅人工呼吸療法の指導と安全管理 ③療養者と家族への指導	講義	
8	在宅酸素療法をしている療養者の援助	在宅酸素療法（HOT）をしている療養者の援助を理解できる	1.在宅酸素療法（HOT） ①在宅酸素療法とは ②在宅酸素療法の指導と安全管理 ③療養者と家族への指導	講義	
9	在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法をして療養者の援助	在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法をして療養者の援助を理解する	1.在宅経管栄養法をしている療養者の援助 ①在宅経管栄養法とは ②経管栄養の方法 ③胃瘻栄養法とは ・家族への指導 ・トラブル・合併症の予防と対処 2.在宅中心静脈栄養法をしている療養者の援助 ①在宅中心静脈栄養法とは ②在宅中心静脈栄養法に関する指導 ③日常生活上の指導	講義	
10	腹膜透析（CAPD）をしている療養者の援助	腹膜透析（CAPD）をしている療養者の援助を理解する	1.腹膜透析（CAPD）をしている療養者の援助 ①腹膜透析（CAPD）とは ②腹膜透析（CAPD）の管理 ③日常生活上の指導	講義	
11	家族看護	家族看護の役割を述べられる 家族看護における看護師の役割を理解する	1 家族の機能と役割 ①世帯統計等から見る家族の形態の変化 ②現在の家族の看護・医療に関わる問題 ③家族の機能 ④家族の理解のための理論 ・家族発達理論 ・家族危機理論 ・家族システム理論 2 家族のセルフケア機能 ①指導場面における機能 3 家族看護での看護師の役割	講義・演習	
12					
13	生活の継続を支える	生活の継続を支えるための仕組みを理解する	1.地域包括ケアシステムにおける関係機関。関係職種 病院内、地域連携室、地域包括支援センター、訪問看護 2.主な在宅療養者への関わり ①子どもの支援 ②障害・難病療養者の支援 ③精神疾患療養者の支援 ④がん末期患者の支援 ⑤高齢者のための支援 3.地域支援のためのシステムとネットワーク 4.地域包括ケアシステムと在宅ケア	講義・演習	事例を通して、地域包括ケアシステムと看護師の役割を考える。
14					
15	テスト				

授業科目	成人看護学概論	学年	2 学年
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	成人期は人間の一生の中で最も長い時期であり、成人期にある対象は日々の生活を営みながら健康管理を行っている。健康や病気に対する受け止め方は一人ひとりの考え方や価値観によって異なり、大人の健康行動は個人の知識や経験、信念、価値観に基づいてなされる。そのため、成人期にある対象の成長発達や暮らしを理解した上で、家族を含めた健康支援や健康レベルに応じた看護を学ぶ。また、退院支援や意思決定支援について考えることで看護師としての役割や倫理について考える。本科目を通して、健康維持・増進や疾病の悪化予防の重要性について学ぶ。		
目的	成人期にある対象の健康状態や生活に合わせた看護の方法を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.成人期にある対象とその家族への健康支援を理解する。 2.成人期にある対象の様々な健康状態に応じた看護実践の方法を理解する。 3.成人期にある対象の健康状態に応じた看護に活用できる理論を理解する。 4.成人期にある対象の暮らしを考え、必要な退院支援を考える。 5.成人期にある対象への意思決定支援から専門職としての倫理を考える。 6.健康支援の実際から暮らしの多様性や健康管理を行う対象の気持ちを考える。 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門分野>成人看護学①・成人看護学総論：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	成人とその家族を支える看護	成人とその家族を支える看護を学ぶ	家族機能 家族アセスメント 家族支援の実際	講義	
2	成人の健康レベルに対応した看護①	急性期にある成人期への看護を学ぶ	急性期にある人の特徴 危機とは 危機理論 ・アギュララとメズイック、フィンク 急性期にある人の看護	講義	
3	成人の健康レベルに対応した看護②	慢性期にある成人期への看護を学ぶ	慢性期にある人の理解 慢性期に活用できる理論 ・病みの軌跡、健康信念モデル 慢性病との共存を支える看護 ・セルフケアとセルフマネジメント ・エンパワメントと自己効力	講義	
4	意思決定支援	意思決定支援と看護師の役割について考える	意思決定支援 意思決定とは 意思決定のプロセス 意思決定プロセスにおける看護師の役割	講義	
5	療養の場の移行支援	成人期にある人の退院支援について考える	移行支援とは 療養の場の移行を支える看護アプローチの特徴 成人への退院支援の実際 ・対象と家族の望む生活の尊重 ・必要とされる医療の継続 ・健康的でその人らしい生活の営みの実現	講義	
6	成人の健康生活を促すための看護①	成人への健康生活を促すための看護の方法を学ぶ	生活習慣病をもつ対象への看護の実際 ・生活習慣改善の指導方法 ・エンパワメントエデュケーション	講義	
7	成人の健康生活を促すための看護②	自己血糖採血の体験から健康管理している対象の思いを考える	セルフマネジメントの実際 ・自己血糖採血の目的・方法・留意点 ・自己血糖採血の体験	演習	
8	テスト				

授業科目	成人看護実践論Ⅰ	学年	2学年
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	脳・神経は身体の情報を管理し指示を出す司令塔のような役割を果たしており、運動器は活動するための身体動作にかかわっている。脳が障害されることは生命維持に直結する機能に危機が及ぶだけでなく、後遺症として身体の機能障害を伴う。運動器の障害も、たとえ一時的なものであっても、身体的側面だけでなく心理・社会的側面にも影響を及ぼし、今後のQOLを大きく左右する。免疫機能は生体防護に関わっており、何らかの要因によってアレルギーや自己免疫疾患などを引き起こしそれによって多様な症状が出現する。脳神経・運動器・免疫機能障害が日常生活に与える影響は大きく、これらの疾患をもつ人は自分自身で身体機能を調整しながら残存機能を活かし社会復帰していくことが求められる。本科目では、それぞれの機能障害をもつ人が疾患による症状に応じて日常生活を送るための看護を学ぶ。		
目的	脳神経・運動器・免疫機能障害をもつ成人期の対象に応じた看護実践の方法を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.脳・神経、運動器、免疫疾患の症状・検査・治療を理解する。 2.脳・神経、運動器、免疫疾患を理解し、根拠に基づいた看護実践の方法を理解する。 3.疾患をもつ対象の思いに配慮したコミュニケーションを考える。 4.成人期にある対象の自己管理能力や自己決定を支援するための看護実践の方法を理解する。 5.健康と暮らしを支える看護師の役割を理解し、専門職としての倫理観を養う。 6.成人期にある対象の多様な健康状態や暮らしを支える保健・医療・福祉システムにおけるチームの協働を学ぶ。 7.主体的に学習に取り組み、自己成長に向けて看護を探究する能力を養う。 		
評価方法	筆記試験（脳神経：45点 運動器：45点 免疫：10点）		
使用テキスト	<系統看護学講座専門分野>成人看護学⑦・脳神経：医学書院 <系統看護学講座専門分野>成人看護学⑩・運動器：医学書院 <系統看護学講座専門分野>成人看護学⑪・アレルギー 膠原病 感染症：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	脳・神経機能障害による主な症状をもつ人の看護	脳・神経機能障害による主な症状をもつ人の看護を学ぶ	意識障害 高次脳機能障害 ・注意・記憶障害に応じた生活指導 ・空間失認の生活訓練・調節 ・失語・構音障害の生活訓練 頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア 嚥下障害 排泄障害	講義	
2	脳・神経機能障害による代表的な検査や治療を受ける人の看護	脳・神経機能障害による代表的な検査や治療を受ける人の看護を学ぶ	神経学的検査 脳波検査 髄液検査時の援助 脳血管造影検査 外科的療法（血腫、腫瘍、動脈瘤摘出術の看護） 内科的療法（薬物療法脳梗塞：抗凝透圧剤、悪性腫瘍：化学療法、低体温療法）	講義	
3	脳・神経疾患をもつ人の看護	脳・神経疾患をもつ人の看護を学ぶ	脳血管障害をもつ人の看護 ・クモ膜下出血、脳出血、脳梗塞 脳腫瘍をもつ人の看護 障害受容プロセスに応じた援助 ・障害受容過程 片麻痺における日常生活動作の訓練と介助方法 障害の改善と克服への援助 社会参加への援助	講義	
4	運動機能障害による主な症状をもつ人の看護	運動機能障害による主な症状をもつ人の看護を学ぶ	神経麻痺・循環障害・疼痛 出血・腫脹・深部静脈血栓症 変形性関節症 リウマチ疾患をもつ人の看護 関節可動域障害・筋力低下の原因と程度	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
5	運動機能障害による代表的な検査と治療を受ける人の看護	運動機能障害による代表的な検査と治療を受ける人の看護を学ぶ	関節鏡、膝関節液検査 ミエログラフィー 手術療法（靭血的整復固定術、四肢切断術、脱臼整復術、人工関節置換術） 保存療法（ギプス固定、副子固定、牽引、補装具固定） 薬物療法	講義	
6	運動器疾患をもつ人の看護	運動器疾患をもつ人の看護を学ぶ	骨折している人の看護 ・ギプス固定時の看護と合併症 ・脊柱手術後の生活指導 脊髄損傷をもつ人の看護 ・脊髄損傷レベルに対応した日常生活動作の訓練 ・排泄障害・性生活指導 ・間歇的自己導尿法	講義	
7	免疫機能障害をもつ人の看護	免疫機能障害をもつ人の看護を学ぶ	膠原病もつ人の看護 ・生体防御機能障害がもたらす生命・生活の影響 自己免疫疾患をもつ人の看護 ・SLEをもつ人の看護 アレルギー性疾患をもつ人の看護	講義	
8	テスト				

授業科目	成人看護実践論Ⅱ	学年	2学年
		単位	1
時期	前期～後期	時間	30
科目設定理由	<p>生体は呼吸をしてエネルギー生産に不可欠な酸素を外界から取り込み、身体の隅々に供給することで生命を維持している。また心臓は、血液循環により酸素を全身に運搬する働きがあり、呼吸・循環とも人間が生きていく上での基盤となる生命維持機能である。これらの機能に障害が起きると種々の臓器障害をきたすため、呼吸器や循環器に機能障害をもつ人は生命予後に対する不安も大きい。感覚器はさまざまな刺激を外から受容する感覚機能とそれらの刺激を選択・調整して反応する自己表現機能を備えている。これらに障害が生じると身体的・心理的苦痛を発生させるのみならず、社会とのつながりや自己の捉え方にも影響を及ぼす。このような疾患の特徴を理解し、病態に応じた看護を学ぶ。</p>		
目的	呼吸器・循環器・感覚器機能障害をもつ成人期の対象に応じた看護実践の方法を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.呼吸器、循環器、感覚器疾患の症状・検査・治療を理解する。 2.呼吸器、循環器、感覚器疾患疾患を理解し、根拠に基づいた看護実践の方法を理解する。 3.疾患をもつ対象の思いに配慮したコミュニケーションを考える。 4.成人期にある対象の自己管理能力や自己決定を支援するための看護実践の方法を理解する。 5.健康と暮らしを支える看護師の役割を理解し、専門職としての倫理観を養う。 6.成人期にある対象の多様な健康状態や暮らしを支える保健・医療・福祉システムにおけるチームの協働を学ぶ。 7.主体的に学習に取り組み、自己成長に向けて看護を探究する能力を養う。 		
評価方法	筆記試験（呼吸器：42点 循環器：36点 感覚器：14点 皮膚粘膜：8点）		
使用テキスト	<p><系統看護学講座専門分野>成人看護学②・呼吸器：医学書院 <系統看護学講座専門分野>成人看護学③・循環器：医学書院 <系統看護学講座専門分野>成人看護学⑩・皮膚：医学書院 <系統看護学講座専門分野>成人看護学⑬・眼：医学書院 <系統看護学講座専門分野>成人看護学⑭・耳鼻咽喉：医学書院</p>		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	呼吸器疾患による主な症状をもつ人の看護	呼吸器疾患による主な症状をもつ人の看護を学ぶ	呼吸器疾患の動向 呼吸器疾患を患った人の身体的、心理・社会的特徴と看護 咳嗽、喀痰 ・効果的な咳嗽、排痰方法、気道の清浄化 血痰、喀血 ・再出血の予防 胸痛 呼吸困難 ・安楽な体位 呼吸器疾患の症状に共通する援助 ・精神的援助、セルフケア指導（生活指導）	講義	
2	呼吸器疾患による代表的な検査や治療を受ける人の看護①	内視鏡検査、呼吸機能検査、酸素吸入を受ける人の看護を学ぶ	内視鏡検査（気管支鏡検査、気管支鏡肺生検、気管支鏡肺胞洗浄、超音波気管支鏡ガイド下針生検、縦隔鏡検査） 呼吸機能検査、ガス交換機能検査 噴霧吸入、酸素吸入、在宅酸素療法	講義	
3	呼吸器疾患による代表的な検査や治療を受ける人の看護②	人工呼吸器装着、ドレナージ、手術を受ける人の看護を学ぶ	人工呼吸器を装着する人の看護 ・人工呼吸器の適応、基本構造、管理 ・陽圧呼吸による影響 ・人工呼吸器装着時の予防的援助 （人工呼吸器関連肺炎、無気肺、感染、スキントラブル、廃用症候群、深部静脈血栓） 気管切開を受ける人への看護 ・気管切開の適応 ・気管切開部の管理 ・コミュニケーションへの援助 胸腔ドレナージを受ける人の看護 ・胸腔ドレナージのしくみとドレナージ中の管理 手術を受ける人の看護 ・手術前・中・後の看護目標とアセスメント及び看護活動	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
4	呼吸器疾患をもつ人の看護①	慢性閉塞性肺疾患、呼吸器感染症をもつ人の看護を学ぶ	慢性閉塞性肺疾患をもつ人の看護 ・慢性期（急性増悪期・安定期）と終末期の看護 呼吸器感染症（肺炎）をもつ人の看護	講義	
5	呼吸器疾患をもつ人の看護②	肺血栓塞栓症、急性呼吸窮迫症候群、睡眠時無呼吸症候群をもつ人の看護を学ぶ	肺血栓塞栓症をもつ人の看護 ・発症後の迅速な対処と症状の増悪防止 ・援助と再発予防 急性呼吸窮迫症候群をもつ人の看護 ・発症後の迅速な対処と症状の増悪防止 ・援助と再発予防 睡眠時無呼吸症候群をもつ人の看護 ・エプワス睡眠スケール	講義	
6	呼吸器疾患をもつ人の看護③	気胸、肺がんをもつ人の看護を学ぶ	気胸をもつ人の看護 ・胸腔ドレナージ挿入時の看護 肺がんをもつ人の看護 ・化学療法・放射線療法 ・手術療法（開胸手術・胸腔鏡下手術）	講義	
7	循環器疾患の主な症状と検査に対する看護	循環器疾患の主な症状と検査に対する看護を学ぶ	主要な症状に対する看護 ・胸痛、動悸、浮腫、呼吸困難、チアノーゼ、失神 検査に対する看護 ・心電図検査 ・運動負荷試験 ・心臓カテーテル法 ・血行動態モニタリング	講義	
8	循環器疾患をもつ人の看護①	不整脈をもつ人の看護を学ぶ	不整脈をもつ人の看護 ・薬物療法の看護 ・ペースメーカーを装着した人の看護 ・ペースメーカー挿入後の生活指導	講義	
9	循環器疾患をもつ人の看護②	虚血性心疾患により様々な治療を受ける人の看護を学ぶ	虚血性心疾患をもつ人の看護 ・労作性狭心症、冠攣縮性狭心症、不安定狭心症、急性心筋梗塞 内科的治療を受ける人の看護 ・カテーテル治療（冠動脈インターベンション） 外科的治療を受ける人の看護 ・冠動脈バイパス術	講義	
10	循環器疾患をもつ人の看護③	心不全をもつ人の看護を学ぶ	心不全をもつ人の看護 ・心不全の病期に応じた援助 ・病態に合わせた生活を維持するための看護	講義	
11	循環器疾患をもつ人の看護④	動脈系疾患をもつ人の看護を学ぶ	動脈系疾患をもつ人の看護 大血管再建術を受ける人の看護 弁置換術、弁形成術を受ける人の看護 手術を受ける人の看護	講義	
12	聴覚機能障害をもつ人の看護	聴覚機能障害をもつ人の看護を学ぶ	聴覚機能障害をもつ人の看護 聴覚機能障害により検査・治療を受ける人の看護 喉頭がん摘出術の看護 ・術後の生活指導 咽頭がんをもつ人の看護	講義	
13	皮膚粘膜機能障害をもつ人の看護	皮膚粘膜機能障害をもつ人の看護を学ぶ	皮膚粘膜機能障害をもつ人の看護 ・免疫抑制薬、ステロイド療法で皮膚粘膜障害がある人の看護 形成外科的治療を受ける人の看護 ・熱傷、褥瘡患者の看護	講義	
14	視覚機能障害をもつ人の看護	視覚機能障害をもつ人の看護を学ぶ	視覚機能障害をもつ人の看護 視覚障害の症状と検査 ・眼圧亢進・眼痛・視野狭窄・欠損・視力障害・失明 ・眼圧検査・視野検査・視力検査 視覚障害の治療を受ける人の看護 ・緑内障・網膜剥離 ・隅角開放術・薬物療法（点眼薬）	講義	
15	テスト				

授業科目	成人看護実践論Ⅲ	学年	2学年
		単位	1
時期	前期～後期	時間	30
科目設定理由	<p>消化器系は生命を維持するために必要な栄養や水分を口から摂取したあと、消化・吸収して体内に取り込み、身体に必要な成分に代謝する。一方で不要な老廃物は解毒・排泄するという重要な役割を担っている。「食べる」ことは生きるために必要な栄養や水分を体内に取り込むだけでなく、生きるうえでの楽しみでもある。したがって、疾患によって「食べられなくなる」ことはQOLの低下につながる。そのため、消化器、口腔機能に障害をもつ人への看護を食事や排泄など、日常生活と関連させて学ぶ。また、本科目では乳房・女性生殖器疾患や感染症疾患についても学ぶ。近年、乳がんの罹患率は上昇傾向にあり、その背景には女性の社会進出が進んだことによる晩婚化や出産年齢の高齢化がある。乳がんや女性生殖器疾患はボディイメージに深く関係する。疾患をもつ人の看護を学び、疾患が及ぼす身体的・精神的・社会的影響を考える。</p>		
目的	消化器・口腔内機能障害と乳房・女性生殖器疾患・感染症疾患をもつ成人期の対象に応じた看護実践の方法を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.消化器、口腔、乳房・女性生殖器、感染症疾患の症状・検査・治療を理解する。 2.消化器、口腔、乳房・女性生殖器、感染症疾患を理解し、根拠に基づいた看護実践の方法を理解する。 3.疾患をもつ対象の思いに配慮したコミュニケーションを考える。 4.成人期にある対象の自己管理能力や自己決定を支援するための看護実践の方法を理解する。 5.健康と暮らしを支える看護師の役割を理解し、専門職としての倫理観を養う。 6.成人期にある対象の多様な健康状態や暮らしを支える保健・医療・福祉システムにおけるチームの協働を学ぶ。 7.主体的に学習に取り組み、自己成長に向けて看護を探究する能力を養う。 		
評価方法	筆記試験(消化器：68点 歯・口腔：8点 乳房疾患：8点 女性生殖器：8点 感染症：8点)		
使用テキスト	<p><系統看護学講座専門分野>成人看護学⑤・消化器：医学書院 <系統看護学講座専門分野>成人看護学⑩・歯・口腔：医学書院 <系統看護学講座専門分野>成人看護学⑨・女性生殖器：医学書院 <系統看護学講座専門分野>成人看護学⑪・アレルギー 膠原病 感染症：医学書院</p>		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	消化器疾患による主な症状と代表的な検査に対する看護	消化器疾患による主な症状と代表的な検査に対する看護を学ぶ	消化器疾患による主な症状をもつ人の看護 ・吐きけ、嘔吐、腹痛、吐血、下血、下痢、便秘、腹部膨満 消化器疾患による代表的な検査を受ける人の看護 ・超音波検査 ・消化管内視鏡時の看護 ・消化管造影検査時の看護 ・ICG排泄検査 ・腹腔鏡検査	講義	
2	消化器疾患の代表的な治療を受ける人の看護	消化器疾患の代表的な治療を受ける人の看護を学ぶ	薬物療法(胃粘膜保護剤、化学療法) 食事療法(経管・経腸栄養法の管理と指導) 手術療法 ・腹腔鏡下手術での看護	講義	
3	胃がんをもつ人の看護①	胃がんの症状や検査・治療に対する看護を学ぶ	胃がんをもつ人の看護 ・症状・検査・治療に応じた看護 ・消化吸収障害と日常生活 ・胃十二指腸潰瘍をもつ人の生活指導	講義	
4	胃がんをもつ人の看護②	胃切除後の合併症予防と生活指導について学ぶ	胃がんをもつ人の看護 ・胃切除後の合併症予防と生活指導 ・ダンピング症候群、イレウスの予防と生活指導	講義	
5	食道がんをもつ人の看護	食道がんをもつ人の看護を学ぶ	食道がんをもつ人の看護 ・症状・検査・治療に応じた看護 ・消化吸収障害と日常生活 ・食道切除後の合併症予防と生活指導	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
6	大腸がんをもつ人の看護①	大腸がんの治療を受ける人の看護を学ぶ	大腸がんをもつ人の看護 ・原因・症状・検査・治療に応じた看護 ・直腸診時の援助 ・腸切除後の合併症予防と生活指導 (ストーマ再建術・マイルズ含む) ・セルフケア再獲得を支援する看護 ・社会保障制度、患者会、家族への支援	講義	
7	大腸がんをもつ人の看護②	大腸がんによりストーマケアを受ける人の看護を学ぶ	大腸がんをもつ人の看護(ストーマケアの実際) ・ストーマサイトマーキングとは ・セルフケア指導、日常生活指導、外来でのフォローアップ	演習	
8	肝臓疾患をもつ人の看護①	肝臓疾患による症状や検査を受ける人の看護を学ぶ	肝臓疾患をもつ人の看護 ・肝臓が障害されて起こる症状とその看護 (腹部膨満、黄疸、肝性脳症・肝性昏睡) ・肝生検を受ける人の看護 ・PTBDを受ける人の看護 ・ERCPを受ける人の看護	講義	
9	肝臓疾患をもつ人の看護②	肝硬変や肝細胞がん、胆嚢疾患をもつ人の看護を学ぶ	肝硬変症をもつ人の看護 ・肝硬変症の原因 ・薬物療法・食事療法・安静療法における看護、生活指導 ・食道静脈瘤や肝性脳症の予防、出血傾向がある人の看護 肝細胞がんをもつ人の看護 ・経皮的局所療法(RFA、PEIT、PMCT)を受ける人の看護 ・肝動脈化学塞栓療法を受ける人の看護 ・肝切除術を受ける人の看護(手術前・手術後の看護) 胆嚢疾患をもつ人の看護	講義	
10	膵炎をもつ人の看護	膵炎をもつ人の看護を学ぶ	膵炎をもつ人の看護 ・原因・症状 疼痛、カレン徴候、グレイ・ターナー徴候、随伴症状 ・血液データ 血清アミラーゼ・尿中アミラーゼ・リパーゼ ・治療 蛋白分解酵素阻害・大量輸液・輸液管理 急性膵炎の看護・慢性膵炎の看護 ・生活指導	講義	
11	歯科・口腔疾患をもつ人の看護	歯科・口腔疾患をもつ人の看護を学ぶ	歯・口腔疾患の動向と看護 患者の特徴と看護の役割 治療に伴う口腔症状に対する看護 ・口内炎(化学療法・放射線療法) ・味覚障害 口腔がんをもつ人の看護 患者の状態に応じた口腔ケア	講義	
12	乳房疾患をもつ人の看護	乳がんをもつ人の看護を学ぶ	乳がんをもつ人の看護 ・症状、検査、自己検診 ・治療(化学療法、放射線療法、ホルモン療法) ・乳房切除術時の看護(精神的支援と生活指導) ・ホルモン療法時の生活指導	講義	
13	女性生殖器疾患をもつ人の看護	女性生殖器疾患をもつ人の看護を学ぶ	子宮疾患をもつ人の看護 卵巣疾患をもつ人の看護 ・症状、検査 ・治療(化学療法、放射線療法、ホルモン療法) ・手術療法を受ける人の看護	講義	
14	感染症疾患をもつ人の看護	感染症疾患をもつ人の看護を学ぶ	患者の特徴と看護の役割 ・感染予防 易感染状態にある人の看護 ・症状に対する看護 ・抗菌薬投与中の看護 感染症疾患をもつ人の看護 ・敗血症 ・日和見感染症	講義	
15	テスト				

授業科目	成人看護実践論Ⅳ	学年	2学年
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	<p>血液は全身への酸素供給や栄養補給、感染からの防御機能、止血機能といった重要な役割を果たしている。血液・造血管疾患は貧血など食習慣や成長発達に伴い出現するものから白血病や悪性リンパ腫などの悪性腫瘍まで幅広く、疾患をもつ人は生体に重大な影響を受ける。治療においても長期間にわたり苦痛を伴うものが多い。このような背景を理解したうえで血液・造血管疾患をもつ人の看護を学ぶ。</p> <p>腎泌尿器疾患もまた、慢性化しやすく治療が長期にわたり、男性生殖器疾患と合わせて、排尿や生殖機能に障害をもつことで強い羞恥心やとまどいを感じやすい。これまでの生活スタイルの変更を余儀なくされることも多く、この単位では日常生活への変化に対応するための生活指導や自己管理能力を高める看護を学ぶ。</p> <p>内分泌・代謝疾患は代表的な慢性疾患であり、疾患をもつ人は自己管理しながら疾患ともに生活していく。糖尿病など生活習慣と関連する疾患も多く、日々の暮らしの中でどのように疾患とつき合っていくか考えていくことが必要である。そのため、内分泌疾患や糖尿病をもつ人への生活指導や自己管理能力を高める看護を学ぶ。</p>		
目的	血液造血管・腎泌尿器・男性生殖器・内分泌代謝機能障害をもつ成人期の対象に応じた看護実践の方法を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.血液造血管、腎泌尿器、男性生殖器、内分泌・代謝疾患の症状・検査・治療を理解する。 2.血液造血管、腎泌尿器、男性生殖器、内分泌・代謝疾患を理解し、根拠に基づいた看護実践の方法を理解する。 3.疾患をもつ対象の思いに配慮したコミュニケーションを考える。 4.成人期にある対象の自己管理能力や自己決定を支援するための看護実践の方法を理解する。 5.健康と暮らしを支える看護師の役割を理解し、専門職としての倫理観を養う。 6.成人期にある対象の多様な健康状態や暮らしを支える保健・医療・福祉システムにおけるチームの協働を学ぶ。 7.主体的に学習に取り組み、自己成長に向けて看護を探究する能力を養う。 		
評価方法	筆記試験（血液造血管：22点 腎：14点 泌尿・男性生殖器：14点 内分泌：22点 糖尿病：21点 栄養代謝：7点）		
使用テキスト	<系統看護学講座専門分野>成人看護学④・血液・造血管：医学書院 <系統看護学講座専門分野>成人看護学⑧・腎・泌尿器：医学書院 <系統看護学講座専門分野>成人看護学⑥・内分泌・代謝：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	造血機能障害による症状と代表的な検査に対する看護	造血機能障害による症状と代表的な検査に対する看護を学ぶ	造血機能障害により代表的な症状がある人の看護 ・貧血のある人の看護 ・出血傾向のある人の看護 造血機能障害により代表的な検査を受ける人の看護 ・骨髄穿刺 輸血時の看護	講義	
2	造血管腫瘍をもつ人の看護	造血管腫瘍をもつ人の看護を学ぶ	造血管腫瘍をもつ人の看護 白血病をもつ人の看護、悪性リンパ腫をもつ人の看護 ・病期と看護のポイント 寛解導入期の看護・寛解期の看護・再発期の看護 ・化学療法時の看護 ・インフォームドコンセントにおける看護 ・感染予防と生活指導	講義	
3	造血幹細胞移植を受ける人の看護	造血幹細胞移植を受ける人の看護を学ぶ	造血幹細胞移植時の看護 ・移植の理解を促す援助 ・移植病室在室中の援助 ・移植片対宿主病の観察と援助 ・退院後の生活指導 造血幹細胞移植時の倫理的配慮	講義	
4	腎・泌尿器疾患による症状と代表的な検査に対する看護	腎・泌尿器疾患による症状と代表的な検査に対する看護を学ぶ	腎機能障害による症状をもつ人の看護 ・高血圧・浮腫 腎・泌尿器疾患による代表的な検査を受ける人の看護 ・膀胱鏡検査、腎機能検査、画像検査（尿路造影） ・腎生検	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
5	腎不全と慢性腎臓病をもつ人の看護	腎不全と慢性腎臓病をもつ人の看護を学ぶ	腎不全と慢性腎臓病をもつ人の看護 ・ 主要な症状 ・ 透析療法（透析療法の目的、種類、看護） ・ 腎移植の目的、種類、適応条件とその看護 ・ 慢性腎不全を抱える対象と災害看護	講義	
6	膀胱がんをもつ人の看護	膀胱がんをもつ人の看護を学ぶ	膀胱がんをもつ人の看護 ・ 症状・検査・治療とその看護 ・ 膀胱留置カテーテルの管理、尿路変更術の看護 ・ ウロストミー・回腸導管造設後の看護 ・ 日常生活への影響と自立に向けた看護	講義	
7	男性生殖器機能障害をもつ人の看護	男性生殖器機能障害をもつ人の看護を学ぶ	精巣腫瘍をもつ人の看護 ・ 生活への影響 勃起障害のある人の看護 ・ 勃起障害に対する薬物療法時の看護 前立腺がんの外科的治療を受ける人の看護	講義	
8	内分泌機能障害における代表的な検査を受ける人の看護	内分泌機能障害における代表的な検査を受ける人の看護を学ぶ	内分泌機能障害をもつ人の特徴 内分泌機能障害における代表的な検査を受ける人の看護 ・ ホルモンの血中濃度測定・尿中測定、負荷試験 ・ 免疫学的評価 ・ 画像検査（甲状腺シンチグラフィ）	講義	
9	内分泌系機能障害をもつ人の看護①	下垂体・甲状腺疾患をもつ人の看護を学ぶ	下垂体疾患をもつ人の症状と看護 ・ 下垂体切除術後の生活指導 甲状腺疾患をもつ人の症状と看護 ・ 甲状腺疾患の薬物療法、放射線療法、外科療法 ・ 甲状腺切除術後の生活指導	講義	
10	内分泌系機能障害をもつ人の看護②	副甲状腺・副腎疾患をもつ人の看護を学ぶ	副甲状腺疾患をもつ人の症状と看護 副腎疾患をもつ人の症状と看護 ・ 副腎摘出術後の生活指導	講義	
11	糖尿病をもつ人の看護①	糖尿病をもつ人の特徴や治療に対する看護を学ぶ	糖尿病を患った人の身体的、心理・社会的特徴 治療に対する看護 ・ 食事療法・運動療法・薬物療法 インスリン自己注射の指導	講義	
12	糖尿病をもつ人の看護②	糖尿病の合併症とその看護、教育的アプローチについて学ぶ	糖尿病の合併症に対する看護と生活指導 足病変とフットケア シックデイとは 災害に備える（自身を守るための事前の備え） 教育的アプローチ ・ 患者教育の実際 ・ 自己管理能力を高めることの重要性について 社会資源の種類と特徴	講義	
13	糖尿病をもつ人の看護③	フットケアについて学習、体験する	フットケアの目的と方法 足の状態の観察、指導内容	演習	
14	栄養代謝機能障害をもつ人の看護	栄養代謝機能障害をもつ人の看護を学ぶ	痛風をもつ人の看護 脂質異常のある人の看護 高尿酸血症・脂質異常症の生活指導 ・ 血液検査データ（LDLコレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪、血清尿酸値）	講義	
15	テスト				

授業科目	成人看護学実習Ⅱ	学年	2学年
		単位	2
時期	前期	時間	90
科目設定理由	<p>成人看護学実習Ⅱは、2年次最初の授業科目である。対象に応じた日常生活援助を実践できる能力を養う基礎看護学実習Ⅰと共に同時進行で2年次がスタートする。よって、基礎看護学実習Ⅰと本実習は学生により順序が入り替わる。</p> <p>1年次は人体の構造と機能や生活援助技術、成長発達支援等を学び、看護の対象は4側面をもつ統合体として捉え、生活者として全体的に洞察することを学習している。また、既習の知識や技術を活かして対象理解につなげ、援助は科学的な根拠を基に計画的に実践し、対象の反応や変化をもとにリフレクションすることを学習している。対象へは受容的・共感的態度、傾聴の姿勢で接し、他者に配慮し倫理観に基づいた看護を実践することも学習している。さらに、成長発達と健康を支える実習を通じ、看護の役割を認識しチームの一員として協働することの大切さも学習している。加えて、看護実践を通して自己の課題を持ちながら看護を探究することを学んでいる。</p> <p>本実習は、治療に応じた看護の実際を学ぶ実習である。健康障害を支えるために治療や検査は欠かせない。適切な治療を受けることで健康状態の回復促進や悪化予防につながる。2年次は疾患を理解し、疾患をもつ人の看護を学ぶ。本実習は、その前に行われる実習であり、健康状態や病期に応じた様々な治療や検査に触れ、看護の役割を学ぶ。</p> <p>よって、実習では各実習場所で行われている治療や検査を、見学や体験から知る。また、看護師と共に行動し、治療の場で看護師が果たしている役割を学ぶ。そして、治療を受けている対象を知ることによって対象理解につなげる。</p>		
目的	治療に応じた看護の実際を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の健康状態や暮らしを理解し、統合体としてアセスメントする。 2. 対象に行われている治療を理解し、健康状態や治療に応じた看護を根拠に基づいて理解する。 3. 治療を受けながら暮らしている対象を支援する保健・医療・福祉システムの役割を理解する。 4. 対象を尊重しながら関わり、看護師としての倫理観を身につける。 5. 看護チームの一員として自己の役割を理解し行動する。 6. 看護実践を通して自己の課題を明確にし、自己成長に向けて主体的に取り組む。 		
評価方法	実習評価表に基づく総合評価		
事前学習	治療や検査の目的・内容（透析療法、化学療法、放射線療法、手術療法、急性期治療、内視鏡検査） 実習場所に関連する解剖生理（構造と機能）		
実習記録	<p>共通記録用紙1：わたしの実習での取り組み</p> <p>共通記録用紙3：対象理解用紙</p> <p>成人看護学実習Ⅱ記録用紙①：行動記録</p> <p>成人看護学実習Ⅱ記録用紙②-1：治療に応じた看護</p> <p>成人看護学実習Ⅱ記録用紙②-2：治療に応じた看護</p> <p>成人看護学実習Ⅱ記録用紙③：治療に関わる多職種や社会資源</p> <p>学びのレポート、評価表</p>		
カンファレンス	<p>行われている治療の目的と看護師の役割（各実習場所）</p> <p>看護師の関わりから得た学び（透析室・ICU実習の2日目）</p> <p>生活しながら治療を続ける対象を支える多職種連携と社会資源（実習7日目）</p>		

実習計画

日	1G	2G	3G	4G	5G	6G	7G	8G	9G	10G	実習内容 1G（4人）ずつローテーションする。 透析室は太田西ノ内病院6名、太田熱海病院2名に分かれ、2日間実習する。 ICUは2グループずつ2日間実習する。 実習7日目は学内で6日目までの実習内容のまとめを行う。 最終日は学内で実習のまとめと最終評価を行う。
1	透析室	透析室	ICU	ICU	SICU	手術室	化学療法	リニアック	整形外科	内視鏡	
2	透析室	透析室	ICU	ICU	手術室	SICU	リニアック	化学療法	内視鏡	整形外科	
3	整形外科	内視鏡	透析室	透析室	ICU	ICU	SICU	手術室	化学療法	リニアック	
4	内視鏡	整形外科	透析室	透析室	ICU	ICU	手術室	SICU	リニアック	化学療法	
5	化学療法	リニアック	整形外科	内視鏡	透析室	透析室	ICU	ICU	SICU	手術室	
6	リニアック	化学療法	内視鏡	整形外科	透析室	透析室	ICU	ICU	手術室	SICU	
7	まとめ(学内)										
8	SICU	手術室	化学療法	リニアック	整形外科	内視鏡	透析室	透析室	ICU	ICU	
9	手術室	SICU	リニアック	化学療法	内視鏡	整形外科	透析室	透析室	ICU	ICU	
10	ICU	ICU	SICU	手術室	化学療法	リニアック	整形外科	内視鏡	透析室	透析室	
11	ICU	ICU	手術室	SICU	リニアック	化学療法	内視鏡	整形外科	透析室	透析室	
12	評価面接（学内）										

実習場所：一般財団法人太田綜合病院附属 太田西ノ内病院（透析室、整形外科外来、内視鏡室、化学療法室、リニアック室、手術室、SICU、ICU）

一般財団法人太田綜合病院附属 太田熱海病院（透析室）

授業科目	老年看護学概論	学年	2学年
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	高齢者は変わり続ける存在であり、一人ひとり生きてきた背景の違いからそれぞれの信条や習慣・価値観が確立されている。老年期を生きる人々がその人らしく生き、よりよい暮らしを営めるよう高齢者の尊厳・権利を守り、加齢や健康問題に伴う生活の変化に応じた個別的な援助の必要性和老年看護の目標と役割について学ぶ。		
目的	高齢者とその尊厳について考え、老年看護の目標と役割について学ぶ		
目標	1.高齢者の日常生活と暮らしを理解する 2.老年看護の目標と役割を理解する 3.高齢者の権利について理解する 4.高齢者を尊重する態度を養う		
評価方法	筆記試験（90点） 課題（10点）		
使用テキスト	<系統看護学講座 専門分野>老年看護学：医学書院 <系統看護学講座 専門分野>老年看護 病態・疾患論：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	高齢者を知る	高齢者に関心をもつと共に、高齢者が望む生活について考える	高齢者を知ろうとすること 高齢者のイメージ 高齢者の生活史と豊かな人生を締めくくるとのこと 自律的な生活に向けた意思決定	講義 演習	課題
2	高齢者疑似体験から考える生活の変化	加齢に伴う変化が生活に与える影響と危険性について理解し、高齢者への生活の援助を考える	高齢者疑似体験	演習	課題
3					
4	高齢者の権利擁護	高齢者の権利と権利擁護について理解する	高齢者に対する差別（スティグマ/エイジズム） 高齢者の権利擁護（アドボカシー） 高齢者虐待・身体拘束 権利擁護のための制度（成年後見制度、日常生活自立支援）	講義	
5	老年看護の基本	老年看護の基本について理解する	老年看護の役割と目標 老年看護の特徴 老年看護に役立つ理論・概念（エンパワメント、ICFを含む） 高齢者のための国連原則 意思決定の支援	講義	
6	様々な経過や療養の場における看護	様々な療養の場における看護を理解する	さまざまな生活療養の場における看護	講義	
7	高齢者のヘルスアセスメントの基本	高齢者のヘルスアセスメントの基本を理解する	高齢者のヘルスアセスメントの基本 高齢者総合機能評価（CGA）	講義	
8	テスト				

授業科目	老年看護実践論Ⅰ（高齢者の生活機能を整える看護）	学年	2学年
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	高齢者はこれまでの人生においてそれぞれに生活をつくりあげてきた存在である。その生活様式や信条、価値観は個性に富んでいる。高齢者の健康は、多様な生活と環境と密接な関係にある。そのため、成長発支援論、健康支援論Ⅱ、老年看護学概論で学習した、加齢による変化や生活を支える社会保障・制度をふまえて、健康を保持することや、障害を最小限に抑え、かつ共存していくために大切な日常生活の看護として、高齢者の生活機能を整え高齢者が住み慣れた地域でいきいきと生活するための援助について学習する。具体的には食事・運動・排泄・睡眠・休息・清潔・衣生活・環境・コミュニケーション・性について学習する。また些細なことで障害をもったり長期臥床状態になりやすいため、日常生活の安全を守るための援助方法も学ぶ。		
目的	高齢者の生活機能を整える看護を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.高齢者の日常生活を理解する 2.高齢者の特徴をふまえたコミュニケーションの方法が理解できる 3.加齢による諸機能に応じた日常生活の援助方法を理解する 4.高齢者の健康に対する関心を高める 		
評価方法	筆記試験 100点		
使用テキスト	<系統看護学講座 専門分野>老年看護学：医学書院 <系統看護学講座 専門分野>老年看護 病態・疾患論：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	高齢者のコミュニケーションと看護	高齢者とのコミュニケーション技術について理解する	高齢者とのコミュニケーションと関わり方の原則 コミュニケーション能力のアセスメント 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法	講義	
2	高齢者の日常生活を支える基本的活動	高齢者の基本動作と転倒及び環境についての看護を理解する	基本動作と環境のアセスメント 日常生活活動（動作）の評価 転倒のアセスメント 転倒予防あるいは転倒した高齢者の看護	講義	
3	高齢者の日常生活を支える基本的活動	高齢者の基本的動作と、廃用症候群のアセスメントと看護を理解する	高齢者と廃用症候群 廃用症候群の予防・早期発見に向けた看護	講義	
4	高齢者の食事と看護	高齢者の食事と看護ケアについて理解する	高齢者の食生活と意義 食生活のアセスメントと支援	講義	
5	高齢者の排泄・清潔と看護	高齢者の排泄・清潔と看護ケアについて理解する	高齢者の排泄ケアの基本 排尿及び排便障害のアセスメントとケア （失禁、前立腺肥大、便秘を含む） 高齢者の清潔と健康課題 清潔のアセスメントとケア	講義	
6	高齢者の生活リズムの変化と看護 高齢者のセクシャリティと看護	高齢者の睡眠や覚醒、生活リズムの変化と看護について理解する 高齢者のセクシャリティと看護について理解する	高齢者の生活リズムを変調 生活リズムのアセスメント 生活リズムを整える看護 高齢者のセクシャリティ セクシャリティのアセスメントと看護	講義	
7	高齢者の生活機能を整えるための援助	高齢者の生活機能を整えるための技術を身につける	義歯洗浄 自動/他動運動 生活機能の視点から援助を検討	演習	
8	テスト				

授業科目	老年看護実践論Ⅱ（健康障害をもつ高齢者の看護）	学年	2学年
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	<p>老年期とは、これまでの人生において様々な事柄に適応しながら価値観や習慣・信条などを築き上げ、やがては死を迎える、人生の最期の年代である。高齢者は加齢に伴う変化に適応し、疾病や症状・障害をもちながら生活しており、老年看護には高齢者が自分らしく生き残るための看護が求められている。高齢者は体調の変化をきっかけに長期臥床状態に陥りやすいため、健康障害をもつ高齢者の特徴とその看護について学習し、家族を含めた疾患の予防・早期発見・早期治療の必要性を学ぶ。また、高齢者自身の意思決定を支援する必要性についても学習する。高齢者が入院及び外来における治療が継続できるように必要な看護を学習する。医療の進歩に伴い、高齢者においても治療の制限は縮小されている。加齢に伴う変化を踏まえて薬物療法や手術療法、検査を受ける際の看護を学習する。疾患については老年病と言われる疾患の中から特に罹患率の高い疾患や多く見られる症状に焦点をあて、それに応じた、健康逸脱からの回復を促す看護の実際を学ぶ。</p>		
目的	健康障害をもつ高齢者の看護を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.疾患をもつ高齢者の特徴を理解する 2.高齢者に多い疾患や症状を理解する 3.健康逸脱からの回復を促す高齢者の看護を理解する 4.生命や死について考え、倫理観を深めようとする態度を養う 		
評価方法	筆記試験 100点		
使用テキスト	<系統看護学講座 専門分野>老年看護学：医学書院 <系統看護学講座 専門分野>老年看護 病態・疾患論：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	疾患を持つ高齢者の看護/ 薬物療法を受ける高齢者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1.疾患をもつ高齢者の特徴について理解する 2.薬物療法を受ける高齢者の看護について理解する 	治療を必要とする高齢者の特徴 薬物療法を受ける高齢者の看護 ・加齢に伴う薬物動態の変化 ・ポリファーマシー ・薬物療法における援助	講義	
2	入院・退院時の高齢者の看護/ 外来診療時の高齢者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1.高齢者の入院時の看護について理解する 2.外来診療を受ける高齢者の看護について理解する 	入院・退院時の高齢者の看護 ・入院に伴う高齢者への影響（リロケーション） ・退院調整・退院支援 外来診療時の高齢者の看護 検査を受ける高齢者の看護	講義	
3	認知症をもつ高齢者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1.認知症の全体像について理解する 2.認知症をもちながら暮らす高齢者について考える 	認知症高齢者の全体像 （概念・主な4つの認知症の発生のメカニズム・検査・診断・治療） 認知症の症状 認知症をもちながら老年期を生きるということ	講義	
4		<ol style="list-style-type: none"> 1.認知症の予防について理解する 2.認知症とうつとせん妄の違いを理解する 	認知症の予防 認知症ともの忘れの違い 認知症とうつとせん妄の違い 認知症と軽度認知障害（MCI）	講義	
5		<ol style="list-style-type: none"> 1.認知症をもつ高齢者の看護について理解する 2.認知症と社会システム、高齢者のための施設と看護師の役割について理解する 	認知症をもつ高齢者の看護 ・認知症看護の原則 ・コミュニケーション方法 ・環境調整 ・急性期医療における看護 ・認知症高齢者と家族を支える社会システム ・認知症高齢者の権利擁護	講義	
6		<ol style="list-style-type: none"> 1.認知症ケアに有効な概念や技術を理解する 2.認知症の症状に応じた関わりを理解する 	認知症ケアに有効な概念・技術 ・ユマニチュード ・パーソンセンタードケア 認知症高齢者の症状に応じた看護	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
7	高齢者の身体症状とアセスメント①	1.高齢者の身体症状（発熱・痛み・掻痒・脱水・嘔吐・浮腫・倦怠感・褥瘡）についてアセスメントできる	高齢者の身体症状のアセスメントと看護 ・発熱 ・痛み ・掻痒 ・脱水 ・嘔吐 ・浮腫 ・倦怠感 ・褥瘡	講義	
8	高齢者の身体症状とアセスメント②	2.高齢者の各症状を予防する看護について理解する	高齢者の各症状を予防する看護	講義	
9	高齢者の身体症状とアセスメント③			講義	
10	脳血管障害をもつ高齢者の看護	1.脳血管障害をもつ高齢者の看護について理解する	脳血管障害をもつ高齢者の看護	講義	
11	パーキンソン病をもつ高齢者の看護	1.パーキンソン病をもつ高齢者の看護について理解する	パーキンソン病をもつ高齢者の看護	講義	
12	肺炎をもつ高齢者の看護 白内障をもつ高齢者の看護	1.肺炎をもつ高齢者の看護について理解する 2.白内障をもつ高齢者の看護について理解する	肺炎をもつ高齢者の看護 白内障をもつ高齢者の看護	講義	
13	骨粗鬆症・骨折のある高齢者の看護	1.骨粗鬆症・骨折のある高齢者の看護について理解する	骨粗鬆症のある高齢者の看護 骨折（大腿骨近位部骨折）のある高齢者の看護	講義	
14	高齢者を介護する家族の看護	1.高齢者を介護する家族の看護について理解する	高齢者を介護する家族の看護	講義	
15	テスト				

授業科目	小児看護学概論	学年	2 学年
		単位	1
時期	後期	時間	15
科目設定理由	<p>子どもは常に成長発達し続けており、人間の一生の中で最も変化の激しい時期である。子どもには必ず養護してくれる人間があり、多くの場合それは家族である。お互いに大きな影響を及ぼしており、子どもの看護を考えていく上で家族は重要な存在である。そこで、家族を看護していくことが子ども自身の看護に繋がっていくことを理解し、小児看護の対象が子どもだけでなく「子どもとその家族」であることを学ぶ。少子・超高齢社会を迎え、社会は大きく変化している。子どもの健康を保持・増進するための活動、歴史や子どもを取り巻く環境及び社会政策・法律などを理解し、保健・医療・福祉・教育の連携の必要性を学ぶことは、子どもを理解し看護していく上で重要である。また、国際化時代にあたり日本国内のことだけでなく、世界の子どもたちの問題へも広く社会に眼を向けていく。「子どもの権利条約」やユニセフ活動などの講義から、「子どもの最善の利益」を守るとは何か、「子ども」であっても一人一人が尊厳存在であることを学ぶ。</p> <p>この科目では、子どもを取り巻く社会環境を中心に対象理解を深め、「子どもと家族」の健康を増進するための看護を学ぶ。</p>		
目的	小児の特徴と子どもを取り巻く社会環境について理解し、健康増進のための子どもと家族の看護を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象を理解する。 2. 小児看護における倫理について考える。 3. 子どもと家族を取り巻く社会環境について理解する。 4. 小児保健の基盤となる保健活動など社会政策の実際を理解する。 5. 小児看護の役割を理解する。 6. 対象を尊重する姿勢を持ち、看護師としての役割を理解する。 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学【1】小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	小児看護の対象、小児看護の目標と役割	小児看護の対象、小児看護の目標と役割について理解する	小児看護の対象 小児看護の目標と役割 小児看護の場と特徴 病院、在宅・家庭、保育園、学校、施設、多職種協働	講義	
2	子どもの健康な生活を支える法・制度	子どもの健康な生活を支える法・制度を理解する	子どもと家族を取り巻く社会 ・子どもと家族の諸統計からの特徴 ・子どもと家族の暮らしと健康の関係 ・暮らしの中で生じる健康問題と影響	講義	
3	小児看護・医療の変遷、課題と展望	小児看護・医療の変遷、課題と展望について理解する	小児看護・医療の変遷と展望 ・小児看護・医療の変遷 ・小児看護・医療の国際的動向 ・小児看護・医療の課題と展望	講義	
4	家族の機能と役割	家族の特徴、家族の機能と役割	家族の特徴とアセスメント ・子どもにとっての家族とは ・家族アセスメント	講義	
5	小児看護における倫理	子どもの権利、意思決定支援について理解する	小児看護における倫理 ・子どもの権利 児童憲章 子どもの権利条約 子どもにとっての健康、子どもの特性 ・医療における子どもの権利 ・医療現場で起こり易い問題点と看護 子どもの意思決定 (現状、子ども・親の意思決定支援) 子どもへの倫理的原則をふまえた実践 (子ども中心の視点、家族とのパートナーシップという視点、成長発達を支援する多職種協働という視点)	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
6	小児保健の基盤となる法律	小児保健の基盤となる保健活動など社会政策の実際を理解する	小児保健の基盤となる法律と政策 <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法 ・児童虐待防止法 ・母子保健法(母子保健行政) ・母子保健施策(健やか親子21、子ども・子育て支援) ・医療費の支援 ・少子化対策 	講義	
6	学校保健	学校保健の役割と現状について理解する	学校保健施策 <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断 ・児童・生徒の慢性疾患と保健管理 ・感染症の予防 ・学校精神保健 ・児童・生徒の事故と対策 難病・障害児保健福祉 <ul style="list-style-type: none"> ・障害者総合支援法 ・自立支援医療制度 ・療育・児童発達支援・特別支援教育 	講義	
7	小児看護・医療の変遷、課題と展望	小児看護・医療の変遷、課題と展望について理解する	小児看護・医療の変遷と展望 <ul style="list-style-type: none"> ・小児看護・医療の変遷 ・小児看護・医療の国際的動向 ・小児看護・医療の課題と展望 	講義	
8	テスト				

授業科目	小児看護実践論Ⅰ	学年	2学年
		単位	1
時期	後期	時間	15
科目設定理由	<p>子どもの誕生は両親を初めとする家族が待ち遠しく感じる出来事である。その中で、先天的な健康問題を持った子どもの誕生は多くの場合、予期せぬことである。家族は子どもに対する反応をどのように示し、養育過程の中でどのように変化していくのかを学ぶことは、子どもと家族に対する看護に繋がっていくと考える。さらに、子どもは先天的な健康上の課題を持ちながら成長発達していく。その発達の過程に起る様々な状況に対する子どもと家族の看護についても学ぶ。</p> <p>この科目では小児看護学概論の内容をふまえ、病気や障害を持つ子どもと家族の特徴と看護の役割を学ぶ。また入院や外来、在宅などの子どもを取り巻く環境や生活の場に特徴づけられる看護を学ぶ。看護の場が多様となっている現在、在宅で療養する医療的ケアが必要な子どもと家族は増えている。障害のある子どもや家族のニーズに応じて、地域で医療・福祉・教育・地域活動などが、子どもと家族を中心として適切に連携することが重要である。チームアプローチと社会資源、看護師の役割について学び、成長発達支援について考える。</p>		
目的	健康上の課題を持つ子どもと家族のおかれている状況を考え、成長発達している子どもと家族への看護を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。 2. 各発達段階にある子どもの病気の捉え方を理解する。 3. 小児病棟の特徴を理解する。 4. 様々な状況にある子どもと家族の特徴とその家族を理解する。 5. 小児看護における倫理について考える。 6. 障害のある子どもと家族への社会的支援と多職種連携、看護師の役割について理解する。 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学【1】小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学【2】小児臨床看護各論 医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と、各発達にある子どもの病気の捉え方を理解する	健康問題・障害が子どもと家族に与える影響と看護 ・子どもの病気の理解と説明 ・病気や診療・入院が子どもに与える影響と看護 ・病気や診療・入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護支援	講義	
2	子どもの状況に特徴付けられる看護	子どもの状況に特徴付けられる看護を理解する	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 ・外来における子どもと家族の看護 トリアージ、予防医療（乳幼児健診、予防接種）	講義	
3	先天性疾患の子どもと家族の看護	先天性疾患の子どもと家族の看護を考える	先天性疾患の子どもと家族 ・先天性疾患の種類 ・先天性疾患を持つ子どもと家族の看護 ・ドローターの障害受容過程	講義	
4	低出生体重の子どもと家族の看護	低出生体重の子どもと家族の看護を考える	低出生体重児の子どもと家族の看護 ・新生児の特徴 ・低出生体重児と家族の看護・特徴	講義	
5	心身障害をもつ子どもと家族の看護	心身障害をもつ子どもと家族の看護を理解する	障害のある子どもと家族の看護 ・障害のある子どもと家族の特徴、社会的支援 ・心身障害児の看護	講義	
6	在宅療養における子どもと家族の看護	在宅療養における子どもと家族の看護を理解する	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 ・在宅療養中の子どもと家族の看護 在宅療養の環境と看護の役割 子どもと家族の特徴 子どもと家族の看護 （日常生活を整える看護、成長発達を支える看護、地域・社会の中での生活支援） 在宅移行における看護 医療的ケア児、レスパイトケア	講義	
7	特別支援学校の役割	特別支援学校の教育の実際と役割について学ぶ	特別支援教育 ・病弱児への支援 ・特別支援学校の役割	講義	
8	テスト				

授業科目	小児看護実践論Ⅱ	学年	2 学年
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	<p>子どもは日々成長発達し、症状の変化も急激である。また、環境の影響を受けやすく、わずか数日でも入院生活を過ごすということは、その成長発達に影響を及ぼすと考えられる。入院期間が長期に及ぶ場合や慢性化する疾患であれば、長い間疾患との共存を強いられ、さらに成長発達への影響は大きい。また家族も子どもの疾患や入院に伴い大きな影響を受ける。しかし、子どもはどのような状態にあってもその子どもなりの成長発達を続けていく。疾患の経過と共に変化していく子どもと家族の生活を身体的・精神的・社会的スピリチュアル的側面から捉え理解し、それに応じた看護を学ぶ。</p> <p>毎日を自由に遊ぶ子どもにとって活動の制限は辛いものであるが、臨床において治療のための活動制限は頻繁に行われる。そこで、「遊びたい」という子どもの権利を尊重し、少しでも苦痛の少ない入院生活を送ることができるように「遊び」の援助について考え、同じ目線に立つことで子どもの気持ちを理解することにつなげたい。子どもは一人ひとりの個人差も大きい。これまで学んだ病態生理を始めとし、小児看護学概論、小児看護実践論Ⅰ・診断と治療論Ⅳの知識を科学的根拠として活用し、紙上事例を用いて看護過程を展開することによって小児看護学のまとめとし、さらに3年次の小児看護学実習へとつなげていく。</p>		
目的	健康上の課題を持つ子どもと家族の状況を理解し、健康状態に応じた子どもと家族の看護を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児特有の疾患を理解し、様々な状況にある子どもと家族の看護について発達段階から理解する。 2. 健康上の課題を持つ子どもにとっての遊びや学習の意義について理解する。 3. 健康上の課題を持つ子どもと家族に必要な援助を事例から考える。 4. 子どもの心理的準備を促すための必要性とその援助について理解する。 5. 小児看護における倫理観を養う。 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学【1】小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学【2】小児臨床看護各論 医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	脱水、けいれんの子 どもと家族の看護	脱水、けいれんの子 どもと家族の看護を 理解する	脱水の子どもと家族の看護 けいれん時の子どもと家族の看護	講義	
2	活動制限を受ける子 どもと家族の看護	活動制限を受ける子 どもと家族の看護を 理解する	活動制限を受ける子どもと家族の看護 ・牽引・ギブス	講義	
3	痛みの看護	痛みを表現している子 どもと家族への看護	痛みを表現している子どもと家族への看護 ・子どもの痛みの受け止め方、表現方法 ・痛みの客観的評価の指標 ・痛み緩和における基本的なアプローチ	講義	
4	川崎病、ファロー四 徴症の子どもと家族の 看護	川崎病の子どもと家族の 看護、ファロー四徴症、無酸 素発作予防の看護について 理解する	川崎病、ファロー四徴症をもつ子どもと家族の看護 ・無酸素発作予防の看護	講義	
5	虐待を受けた子ども と家族の看護	虐待を受けた子どもと家 族の看護を理解する	虐待を受けた子どもと家族の看護 ・リスク要因と発生子防、早期発見 ・子どもの虐待に特徴的に見られる状況 ・子どもと家族のケア ・安全で安心できる関りとなる連携、虐待防止システム	講義	
6	慢性期にある子ども と家族の移行期支援	慢性期にある子どもと家 族の移行期支援について理解 する	慢性期にある子どもと家族の看護(糖尿病) ・小児慢性特定疾患治療研究事業 ・外来環境と入院環境 子どものセルフケアの育成 成人期移行支援	講義	
7	小児がんの子どもと 家族の看護	化学療法をしている子 どもと家族の看護を理解する 隔離時の看護、発熱時、出 血時の看護を理解する	化学療法をしている子どもと家族の看護 感染隔離の看護 ・隔離時の看護 ・発熱時の看護 ・出血時の看護	講義	
8	遊びと学習	入院している子どもにと つての遊びと学習の援助につ いて理解する	入院している子どもにとっての遊びと学習の援助 ・入院している子どもにとっての遊びと学習の意義	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
9	検査・処置時の看護	検査・処置時の子どもと家族の看護を理解する	検査・処置時の看護（プレバレーション） ・腰椎穿刺、骨髄穿刺、輸液管理、採血、与薬、採尿、坐薬	講義	
10	子どもと家族の意思決定支援	子どもの意思決定支援のための心理的支援技術	意思決定支援のための心理的支援技術（インフォームドコンセントとアセント、プレバレーション） 検査・処置時の看護 ・バイタルサイン測定 ・身体測定(身長、体重、腹囲)	講義 演習	
11	事例を用いた看護過程①	気管支喘息患児の事例アセスメントの視点、病態関連図を用いて状態をとらえる	気管支喘息患児の事例を用いて看護過程を考える 1)アセスメントの視点一対象理解をどのように考えるか 2)病態関連図を用いながら、今までの学習した知識をもとに現在の状態をアセスメント	講義 演習	
12	事例を用いた看護過程②	気管支喘息患児の事例急性期から回復期に向けた看護について理解できる	気管支喘息患児の事例を用いて看護過程の展開日々の状態からアセスメントし、援助の方向性、計画立案	演習	
13	事例を用いた看護過程③		気管支喘息患児の事例を用いて看護過程の展開	演習	
14	事例を通じた急性期の看護	急性期の子どもについて演習を通して学ぶ	急性期の子どもと家族への看護 ・急性期症状の子どもの看護をシミュレーション学習で学ぶ	演習	
15			終講試験		

授業科目	母性看護実践論Ⅰ	学年	2 学年
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	<p>人間関係形成の根源となる母子関係、家族関係は妊娠期から大きく変化する。また、この時期の母子関係が児の人格形成にも大きな役割を果たす。母親とその家族、そして児が母子相互作用を発揮できるような環境づくりや、母子にとって安心・安全で刺激が少ない環境を整えることが重要である。人間の一生の中で身体・心理・社会面ともに大きく変化する妊娠を一連の流れとして考えさせる必要がある。</p> <p>本来、妊娠の経過は生理的な現象であり、母性看護の特徴は、対象者の健康レベルは高く、より向上させるための援助を必要とすることである。それには、対象の強みや力を引き出すことが重要となる。夫婦ともに出産時高年齢化が進んでいる。妊孕性に対する課題と共に、妊娠成立後も精神・社会的には未熟なまま親になるケースも多い。そのため、この時期の母子や家族への看護が果たす役割は大きい。対象とその家族が協力し親役割を果たせるように支援する必要性を学ばせることは重要であると考えられる。</p>		
目的	妊娠期にある人々とその家族への看護について基礎的知識と看護技術を学び、演習で必要な看護技術を習得する。		
目標	<p>1.不妊治療の現状と看護の実際を学び、看護の必要性について理解する</p> <p>2.妊娠による身体的・心理的变化から妊娠中における対象のニーズを学び、看護の必要性を理解する。</p> <p>3.妊婦の健康の保持増進と胎児の発育に必要な健康診査の重要性を理解し、その方法を理解する。</p> <p>4.妊婦及びその家族の健康維持のセルフケアができるための保健指導の重要性を理解する。</p>		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<p><系統看護学講座専門分野> 母性看護学1・母性看護学概論：医学書院</p> <p><系統看護学講座専門分野> 母性看護学2・母性看護学各論：医学書院</p> <p><系統看護学講座専門分野> 成人看護学9・女性生殖器：医学書院</p>		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	不妊治療を支える看護	不妊治療の現状と看護について理解する	不妊治療の実際と看護 不妊の検査 不妊治療の実際 不妊治療を受ける対象の看護	講義	母性看護学概論 (5回目)関連講義
2	妊娠期の健康管理①	妊娠による全身の身体的変化に伴う健康管理について理解する	妊娠期の看護 妊娠期の健康管理 ・妊婦健康診査の目的と方法 母体の生理的变化 生理的变化に伴うマイナートラブル	講義	
3	妊娠期の健康管理②	妊娠期の母体・胎児の健康状態を把握するための方法を理解する	胎児の成長と発育 胎児の成長と身体機能の発達 ・胎児の成長を把握する検査 ・胎児の健康状態の評価	講義	
4	妊娠期の看護の実際①	妊婦・胎児の健康管理を支援する方法について理解する	妊娠期の看護 妊娠期の健康診査の方法 妊婦体験 子宮底・腹囲の測定	講義・演習	
5	妊娠期の看護の実際②	妊婦・胎児の健康管理を支援する方法について理解する	胎児モニタリング装置の装着と判読 ・レオポルド触診法 ・CTG判読 ・仰臥位低血圧症候群の予防と対応 異常波形出現時の対応	講義・演習	
6	周産期のセルフケアと保健相談①	周産期のセルフケアに関する保健指導の必要性とその内容について理解する。	1) 周産期の保健指導 (1) 保健相談の目的・方法 (2) 妊娠期・産褥期の保健指導 助産師外来での支援	講義	
7	周産期のセルフケアと保健相談②	妊娠期のセルフケアに関する保健指導の必要性とその内容について理解する。	1) 妊娠時のセルフケアと保健指導 日常生活で注意すること	講義	
8	テスト				

授業科目	母性看護実践論 II	学年	2 学年
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	分娩や産後の育児は母子やその家族にとってかけがいのない体験となる。そのため、母子ともに安全に経過するような援助を学ぶ必要がある。行政や地域で行われる事業において子どもを安全で健康に産み育てていくために行われるサポートを学ぶ機会になる。分娩期・産褥期は母と子の相互作用がとて重要になり、母子双方の特徴を学んでいく必要がある。新生児については胎内生活から胎外生活への変化を捉えることが重要である。小児看護や母性看護学実習にも繋がる部分であり、生命の神秘性や生命の尊厳について考える。		
目的	産褥期にある人々とその家族への看護について基礎的知識と技術を学び、必要な看護技術を習得する。		
目標	1.分娩の生理及び分娩に伴う心身の変化と分娩時の看護を理解する。 2.産褥期の生理的变化と正常からの逸脱を理解し、必要な看護について理解する。 3.母性を心理社会的側面からとらえ、心理的变化を理解する。 4.母子一体性を理解し、一個の人格をもつ人間として新生児看護の必要性を理解する。 5.新生児の生理的变化と正常からの逸脱を理解し、必要な看護について理解する。		
評価方法	筆記試験・課題		
使用テキスト	<系統看護学講座専門分野> 母性看護学 1・母性看護学概論：医学書院 <系統看護学講座専門分野> 母性看護学 2・母性看護学各論：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	分娩期の経過と看護	分娩期の3要素について理解する	分娩の3要素 娩出力 産道 娩出物 分娩第1期～分娩第4期の看護 基本的ニーズの充足 産痛緩和	講義	
2	分娩期にある産婦の身体的・心理的特徴	1. 分娩期の生理について理解する 2. 分娩期の産婦の心理について理解する	分娩第1期～分娩第4期の生理と進行 分娩開始から胎盤剥離までの機序 分娩の進行と産婦の身体的変化 分娩第1期～分娩第4期の心理・社会的変化 分娩期の産婦と家族への支援	講義	
3	分娩期の経過と看護	分娩期の看護について理解する	分娩第1期～分娩第4期の看護 基本的ニーズの充足 産痛緩和	講義	
4	産褥期の身体的変化（退行性変化）と回復に向けた看護	産婦の身体機能回復及びセルフケアへの看護を理解する	産褥期の定義 進行性変化と退行性変化 全身状態の変化 生殖器の変化 セルフケアを高める看護	講義	
5	産褥期の身体的変化（進行性変化）	産褥期の乳房の変化と乳汁分泌のメカニズム、乳汁の特徴を理解する	産褥期の乳房の変化 乳汁分泌のメカニズムと乳汁の特徴 乳房の観察とケア 乳房のトラブル	講義	
6	産褥期の心理的特徴と看護	母性意識の発展過程と産褥期の心理変化を理解する	母性意識の発展過程と産褥期の心理変化 母親役割獲得のプロセス マタニティブルーと産後うつ 産婦の退院後の支援 退院指導、産後健診（2週間健診、1か月健診）	講義	
7	新生児の身体的特徴と看護①	出生直後の新生児の生理的特徴を理解する	出生直後の看護 新生児の特徴と看護 バイタルサイン測定 身体所見と観察方法	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
8	新生児の身体的特徴と看護②	新生児の生理的経過（順調に成長・発育を促す看護について理解する	新生児の栄養と看護 新生児の消化・排泄 新生児の体重の変化 新生児生理的黄疸と看護	講義 演習	
9	新生児の身体的特徴と看護③		新生児期の生活と看護 新生児の養育環境 新生児に行われる検査と退院支援（マスキング検査、聴覚検査） 2週間健診・1か月健診	講義	
10	母乳育児支援	母乳育児支援について理解する	母乳育児支援の実際 ポジショニング・ラッチオン コミュニケーション・スキル 栄養—母乳と人工栄養の特徴	講義 演習	
11	育児支援技術演習	新生児の沐浴を実践し、理解する	新生児の清潔の援助 沐浴指導 沐浴・清拭・更衣の方法	演習	
12	褥婦・新生児の看護過程①	周産期の母子相互の視点を用いたアセスメントと立案について理解できる。	母性看護過程の展開 ・ウェルネス看護 ・周産期の母子のアセスメント ・母子の援助の方向性の立案	演習	課題
13	褥婦・新生児の看護過程②			演習	課題
14	褥婦・新生児の看護過程③			演習	課題
15	テスト				

授業科目	精神看護学概論	学年	2 学年
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	<p>近年、日本の精神科医療および精神保健福祉サービスのあり方は急速に変化している。こころの健康障害は人生における危機やストレスにより誰にでも起こり得るものである。精神疾患患者は年々増加し、現代社会においてメンタルヘルスケアは特別なものではなくなっている。一方、精神医療の歴史的背景から、精神障害者は単に精神疾患を抱えるだけではなく、偏見により基本的な人権としてのさまざまな自由を奪われてきた。そのため精神看護を学ぶ上で、対象の病いの体験と現実の問題として起こる対象の生きにくさを知ることが重要となる。精神看護学概論では、「病い」の体験と医学モデルによる「疾患」の2つの側面から対象の生きにくさを理解し、精神が健康であるためにどのような力が必要かを考え現代社会における精神看護の必要性を理解する。精神看護は対象だけではなく、自己との向き合い方によって看護の質が変化する。ケアの人間関係は感情を通して自分を知り相手を理解することが必要不可欠である。ケアの原則と方法、プロセスレコードの活用を学び、自分の価値観だけが全てではなく、自己と他者が違うからこそ理解しようと努力することの重要性を学ぶ。</p>		
目的	こころの健康とケアの人間関係を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.現代社会における精神看護の必要性を知り、精神の健康に対する関心を高める。 2.精神障害と治療の歴史、日本の精神医療の流れを学び、人権擁護への理解を深める。 3.「病い」の体験と医学モデルによる「疾患」の2つの側面から対象の生きにくさを理解する。 4.対象理解を深めるために必要な理論について理解する。 5.ケアの人間関係と原則、方法、プロセスレコードの活用について理解する。 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門分野>精神看護学[1]精神看護の基礎：医学書院 <系統看護学講座専門分野>精神看護学[2]精神看護の展開：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	対象の生きにくさの理解と精神看護学で学ぶこと	現代社会における精神看護の必要性を学ぶ	精神看護学の基本的な考え方 精神障害をもつ人の病の体験と精神看護 「心のケア」と日本社会 精神障害という考え方	講義	
2	社会のなかの精神障害	精神疾患・障害と治療の歴史、日本の精神医療の流れを学ぶ	精神障害と治療の歴史 日本における精神医学・精神医療の流れ 精神障害と法制度	講義	
3	精神を病むことと生きること	病いの体験と医学モデルによる疾患という2つの側面から精神障害を学ぶ	病の経験の理解への手がかり 生物・心理・社会モデル ストレスをはねかえすカテゴリー	講義	
4	対象理解に関する理論	対象者の理解に必要なさまざまな理論を学ぶ	精神力動的理解 自我の適応能力 発達課題と起因する問題 マズローの欲求段階説	講義	
5	ケアの前提 ケアの原則	ケアの人間関係は感情を通して自分を知り相手を理解することが必要不可欠であること、尊厳をいかにしてまもるかを学ぶ	人としての尊厳を尊重する 互いの境界をまもる 応答性を保つ 現実検討をする	講義	
6	ケアの方法	対象への接近の仕方、言語を介した患者との関わり、看護師の感情の扱い方などケアの基本的な方法を学ぶ	そばに居ること、遊ぶこととユーモア 話すこと、聞くこと 自分自身であること 関係をアセスメントする	講義	
7	プロセスレコードの活用	看護におけるプロセスレコードの活用の方法を学ぶ	プロセスレコードを活用する意義 プロセスレコードの活用目的 プロセスレコードの記述方法 プロセスレコードと看護場面の再構成	講義	
8	テスト				

授業科目	精神看護実践論Ⅰ（こころの健康を支える看護）	学年	2 学年
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	人間は人生のなかでさまざまな危機に直面する。危機をうまく乗り越えることができればレジリエンス、ストレングスは高まり、危機は成長のチャンスとなる。一方、発達上の課題をうまく乗り越えられなかったり、危機的状況への対処が遅れたり不適切だった場合、メンタルヘルス上の問題につながる。現代社会においてこころの健康をいかに維持し、増進していくかが重要となる。精神医療は病院中心から地域・在宅中心の医療にシフトし、今後、地域移行、地域生活支援の強化、ケアの充実はますます重要な課題となる。精神看護実践論Ⅰでは、対象にとっての回復の意味を考え、精神における一次予防・二次予防・三次予防の各段階で行われる精神保健福祉活動と、地域生活を支えるシステム、継続した支援の必要性を学ぶ。健康教育の実際を学び、地域生活でこころの健康を支えるための精神保健医療福祉活動の理解を深める。また、看護は対人関係におけるケアである。対人援助には不可欠となる感情労働と看護師としてのメンタルヘルスについて学ぶ。		
目的	こころの健康を支えるための看護を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.対象にとってのリカバリーの意味を考え、地域生活を支えるシステムと継続した支援の必要性を理解する。 2.リカバリーを支えるためのさまざまな援助方法について理解する。 3.こころの健康の維持、増進に向けた健康教育の方法を理解する。 4.看護における感情労働とメンタルヘルスについて理解する。 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門分野>精神看護学[1]精神看護の基礎：医学書院 <系統看護学講座専門分野>精神看護学[2]精神看護の展開：医学書院 <系統看護学講座別巻>精神保健福祉：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	こころの健康と回復（リカバリー）	回復（リカバリー）の意味を理解する	回復（リカバリー）の意味 リカバリーとリハビリテーション パーソナルリカバリーと臨床的リカバリー リカバリーを促す環境としての一次、二次、三次予防	講義	
2	リカバリーを支えるための支援	リカバリーを支えるためのさまざまな治療や支援を学ぶ	精神療法・ナラティブアプローチ 看護カウンセリング 集団精神療法 行動療法	講義	
3	自己コントロールを高めるケア	自己コントロールを高めるケアについて理解する	認知行動療法（CBT） リラクゼーション 呼吸法	講義	
4	ソーシャルスキルトレーニング	ソーシャルスキルトレーニングとその実際を学ぶ	レクリエーション ソーシャルスキルトレーニング（SST）とは ソーシャルスキルトレーニング（SST）の実際	講義 演習	
5	看護における感情労働とメンタルヘルス	看護における感情労働とメンタルヘルスについて学ぶ	医療の場におけるメンタルヘルス 看護師の不安と防衛、感情ワーク 共感疲労を予防するためのいくつかのヒント 看護師のメンタルヘルスへの支援 リエゾン精神看護	講義 演習	
6	精神保健福祉に関する啓発と教育	精神保健における健康教育の方法を学ぶ	健康教育の方法 精神保健における健康教育の実際	講義 演習	
7	精神保健福祉に関する啓発と教育	精神保健における健康教育の方法を学ぶ	健康教育の方法 精神保健における健康教育の実際	講義 演習	
8	テスト				

授業科目	精神看護実践論Ⅱ（こころの健康状態に応じた看護）	学年	2 学年
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	<p>精神看護では、看護の対象者であるその人が持っている顕在、潜在する力を最大限に発揮でき、主体的に生活できるよう自己決定を尊重し自己実現に向かえるような支援が重要である。対象に起きる生きにくさ、生活上の困難を理解し対象の人生や営まれる暮らし、多様な価値観を尊重し、リカバリーを支える看護を実践する力を身につけていくことが求められる。精神看護実践論Ⅱでは、危機的状況により日常生活、人間関係に大きな影響を及ぼし、精神科での治療が必要となった対象への看護を学ぶ。入院治療の意味と回復を促す治療的環境、精神科におけるさまざまな治療と看護について理解する。精神看護は対象との看護師の対人関係を基盤とし、その過程の中でリカバリーに向けた援助が行われる。患者―看護師の治療的人間関係でおきる感情体験についての理解を深め、能力の再構築と再発防止に向けた退院支援と地域移行支援の実際を学ぶ。継続性のある地域生活支援と多職種連携の重要性、地域で暮らしている人々の健康を支えるための支援の方法を学ぶ。対象をそれぞれ独自の人生を歩む生活者として捉え、対象に起きている状況を踏まえ、対象のその人らしさやそれぞれが持つストレス、レジリエンスをもとに可能性から看護を考える力を養う。</p>		
目的	こころの健康状態に応じた看護を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.入院治療の意味、回復を促す治療的環境と看護を理解する。 2.精神機能の障害であるさまざまな精神症状、アセスメントについて理解する。 3.精神科におけるさまざまな治療、看護について理解する。 4.能力の再構築と再発防止に向けた退院支援と地域移行支援について理解する。 5.継続性のある地域生活支援と多職種連携について理解する。 6.対象それぞれが持つストレス、レジリエンスをもとに可能性から看護を考える力を養う。 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<p><系統看護学講座専門分野>精神看護学[1]精神看護の基礎：医学書院 <系統看護学講座専門分野>精神看護学[2]精神看護の展開：医学書院 <系統看護学講座別巻>精神保健福祉：医学書院</p>		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	入院治療の意味	回復過程における入院治療の意味と回復を促す治療的環境について学ぶ	日常生活でのつまずき 入院という体験 入院のメリット、デメリット 治療的環境としての病棟	講義	
2	精神症状と状態像の理解	精神症状と状態の査定について学ぶ	精神症状論と状態像 思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶 精神状態（MSE）の程度の把握	講義	
3	入院中の観察とアセスメント	入院中の観察とアセスメント、ケアの方向性の考え方を学ぶ	入院時オリエンテーション 観察とアセスメントの方法 患者の日常生活状況を知る	講義	
4	統合失調症患者の看護の実際	統合失調症患者の看護の実際を学ぶ	統合失調症の経過と症状 統合失調症の経過に応じた看護 各症状への看護	講義	
5	気分障害患者の看護の実際	気分障害患者の看護の実際を学ぶ	気分障害の経過と症状 気分障害の経過に応じた看護 各症状への看護	講義	
6	神経症性障害、ストレス関連障害、精神及び行動の障害の看護の実際	神経症性障害、ストレス関連障害、精神及び行動の障害の看護の実際を学ぶ	不安のレベルとレベルに応じたケア 恐怖症性不安障害をもつ人への看護 強迫性障害をもつ人への看護 重度ストレス反応をもつ人への看護	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
7	心理的発達障害、小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害の看護の実際	心理的発達障害、小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害の看護の実際を学ぶ	アルコール症をもつ人への看護 発達障害をもつ人への看護 摂食障害をもつ人への看護 パーソナリティ障害をもつ人への看護	講義	
8	安全を守る	精神科医療における安全の基本的な考え方とリスクマネジメントを学ぶ	安全の条件 リスクマネジメントと行動制限 緊急事態に対処する 災害時における対応	講義	
9	精神科のさまざまな治療	抗精神病薬の有害反応、その予防・対処方法、電気痙攣療法における看護を学ぶ	精神科における薬物療法の意義 向精神病薬の有害反応 看護による服薬へのかかわり 電気痙攣療法を受ける患者のケア 作業療法	講義	
10	退院支援・地域移行支援	精神障害をもつ人の回復を促す退院支援、地域移行支援の実際を学ぶ	退院にむけての支援とその実際 疾患教育とリハビリ クライシスプラン 心理教育 家族支援	講義	
11	地域生活支援の実際	地域生活支援の実際を学ぶ	器としての地域 地域における生活支援の方法 地域におけるケアの方法と実際 アウトリーチと多職種連携	講義	
12	患者－看護師関係における感情体験	患者－看護師関係でおきる現象のしくみと対処法を学ぶ	転移・逆転移 感情の容器になる 「肯定的感情」と「否定的感情」にまつわる誤解 攻撃される・拒否される 何度も同じことを繰り返される・ふりまわされる	講義	
13	精神における観察と援助	必要な観察と対象に応じた看護を学ぶ	対象に起きている症状と生活のしづらさ 日常生活への影響	講義 演習	
14	精神における観察と援助	必要な観察と対象に応じた看護を学ぶ	対象の状況に応じた看護 患者の参加とケアプランの立て方	講義 演習	
15	テスト				

授業科目	周術期看護	学年	2学年
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	外科的治療（手術）を受ける患者は共通の特徴を持っている。手術は患者自身の意思で選択される治療法ではあるが、生体への侵襲を伴い、術前に期待した結果が得られない場合や、社会復帰が遅れるなど、予後が左右される事例もある。患者の不安や恐怖は計り知れず、患者を支える家族も同様である。このような患者を前にして看護師の果たす役割はきわめて大きい。患者の意思決定を尊重するとともに、手術を安全に行い患者の術後の回復を促すための看護介入や、チーム医療が効果的に行われるようコーディネーターの役割を果たさなければならない。また、入院期間の短縮や在宅医療への移行が進むなか、外来看護の重要性も増してきている。本科目では、周術期にある対象と治療を理解し、術後合併症予防と回復促進のための看護の実際について学ぶ。		
目的	周術期にある対象と治療を理解し、術後合併症予防と回復促進のための看護の基本的知識と基本的技術の実際について学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.周術期にある患者・家族の特徴を理解する。 2.手術・麻酔の種類と適応について理解する。 3.手術後の心身の反応と回復過程について理解する。 4.周術期の患者の意思を尊重し、患者の権利を擁護する看護について理解する。 5.手術前・中・後期における看護の目標と援助について理解する。 6.術後合併症予防・回復促進のための援助方法を理解し、実践できる。 7.成長発達各期の周手術期の看護の特徴について理解する。 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座>別巻・臨床外科看護総論：医学書院 <系統看護学講座>専門分野・母性看護学各論・母性看護学2：医学書院 <系統看護学講座>専門分野・老年看護学：医学書院 <系統看護学講座>専門分野・小児看護学概論・小児臨床看護総論：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	手術侵襲とは①	1.周術期看護の概要と看護師の役割について理解する 2.手術侵襲と生体反応について理解する	周術期の看護の概要と看護師の役割 手術侵襲に対する生体反応 麻酔侵襲に対する生体反応（神経・内分泌反応）、ムーアの分類	講義	
2	手術侵襲とは②	手術侵襲と生体反応について理解する	手術侵襲に対する生体反応 炎症、感染症、創傷治療・管理	講義	
3	麻酔とは①	麻酔の種類と合併症について理解する	全身麻酔と局所麻酔の方法、使用薬剤、合併症	講義	
4	麻酔とは②	麻酔の種類と術前・中・後の管理について理解する	麻酔法と術前・中・後の管理	講義	
5	手術前の看護	手術前の看護について理解する	外来における手術前の看護（診断過程、意思決定支援、患者教育・指導、連携） 手術前の具体的援助（術前オリエンテーション、術前訓練：呼吸訓練、トライボール、排痰訓練、含嗽訓練、起き上がり訓練、手術直前の準備） 手術当日の看護、術前処置 日帰り手術を受ける人の看護	講義	
6	手術中の看護	手術中の看護について理解する	術中の看護の要点（患者の状況、安全管理） 手術室における看護の展開（入室時、麻酔導入時、術中、手術終了後） 手術室の環境管理	講義	

7	手術後の看護①	手術後の回復を促進するための看護について理解する	手術後の回復を促進するための看護 術後合併症の発生機序	講義	
8	手術後の看護②	おこりやすい術後合併症の予防と発症時の対応について理解する	おこりやすい術後合併症の予防と発症時の対応（術後出血、循環器合併症、呼吸器合併症、精神・神経系合併症、消化器合併症、代謝・内分泌系合併症、腎・泌尿器合併症、運動器系合併症、縫合不全、術後感染症）	講義	
9	周術期の経過に応じた看護	周術期にある人の経過に応じた看護がわかる	手術の経過に合わせた目標の設定 予測される身体的状況と術後合併症に対する看護 周術期の経過に応じた看護（治療・検査・処置・安静度・日常生活）	GW	
10	周術期術後の看護技術演習①	1.術前訓練を実践する 2.体位ドレナージ・スクイーピングを実践する	術前訓練：呼吸訓練、トライポール、排痰訓練 含嗽訓練、起き上がり訓練 体位ドレナージ・スクイーピング	演習	
11	周術期術後の看護技術演習②	周術期に必要な看護技術を実施する	術後1日目の看護計画をもとに、早期回復にむけた援助技術を実施する。 術後1日目のバイタルサイン測定 ・創部の観察 ・疼痛管理 ・呼吸・循環状態の観察 ・ドレーン観察・管理 離床の進め方	演習	
12	手術を受ける高齢者の看護	手術を受ける高齢者の看護について理解する	高齢者の外科的治療 高齢者の周術期の看護、手術前・後の看護	講義	
13	手術を受ける小児の看護	手術を受ける小児の看護を理解する	小児の外科的治療 小児の周術期の看護、術前・術後の看護 家族に対する助言・指導	講義	
14	帝王切開術を受ける産婦の看護	帝王切開術を受ける産婦の看護を理解する	帝王切開とは 帝王切開術前・中・後の看護 緊急帝王切開術を受ける産婦の看護	講義	
15	テスト				